

ふかんど... 千潟の中に、長いヤケラを組んで、そこを発射台にして花火大会があった頃

ふかんど

第40号

1981年
9月9日

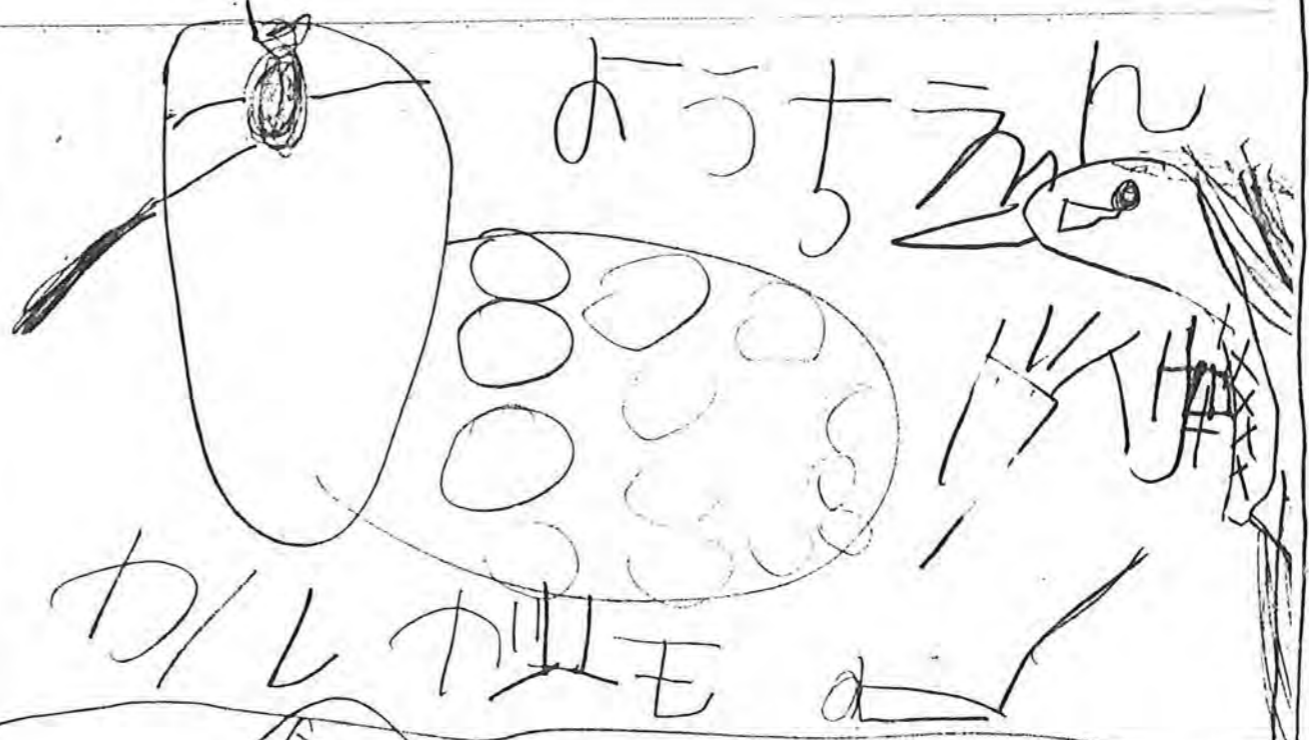
谷津千潟愛護研究会
千272 市川市本北方二丁目三五ノ六
電話0571-311666
文責 木村田三郎

講読年2000

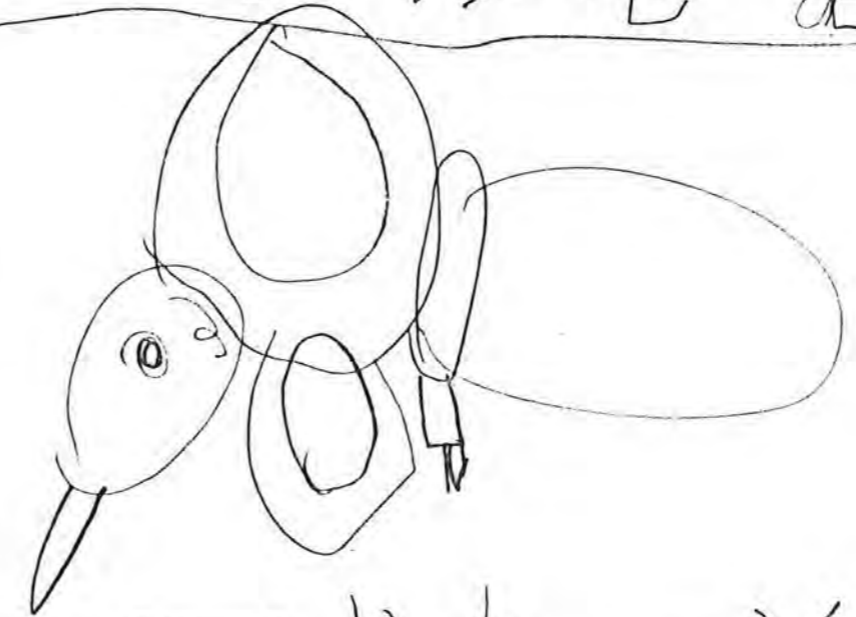
PRINTED IN
ふかんど

谷津千潟通信箱 ～みんなの声～

3-9



ようすうん
かじかじも



コリカモメ
おこまけとみ

右の絵が、谷津千潟に寄せられた幼稚

園児の、その「声」である。3-9とあるのは、今年の3月9日ということがある。

通信箱が、初めて作られたのは、今からどう、6年前の昭和50年11月だったと思う。やはり私が考えて作った。その後はひどいことだった。こわされたり、引っこ抜かれたり火をつけてられたり、千潟の中へ投げ込んであった。ゴミヤドロ、時にはウンコさえ入れてあった

。ノートを入れておくと、向きなく盗られてしまうのだ。キーッ又入れる。確か15、16マフ目だと思ふ。通信箱をよれと似たような有様であった。

地元自然保護団体は、通信箱に因りて、全くと言ってよいほど頼りにならなかつた。通信箱ヤノートがこわされたり、なくなつていても、そのままであった。私も、何回かどうしようかと思つた。何の価値もないのではないかと思つた。しかし、気落ちしつつも、他日良くなるだろうと思つて続けたのである。右の、こういう「声」を書く幼な児がいる限り、それを希望としてきた。

松葉杖をついても
台倉へ行こうと思った

森田 三郎

野生の猿が一目見たかった。野生の猿が棲むところ、そんな所へ行きたかった。そうすれば心が慰さめられ、安まると思った。

出来るだけどう猛で、荒々しい「野生の猿」であればあるほど、うれしいのだ。動物園や餌づけされた猿なんか、おれは嫌いだ。人間にかわいがられ、アナタ好みの、去勢されたものなんか、淋しさと心のかわきを覚える。

斜面の杉の木の上、谷に向かって、「ガツガツガッガッ」と叫ぶ猿の姿を見ておれは思った、「これだ、これだ、これでいい」「こんなふうでなくっちゃ！」と……。

人間にシツポなんか振っちゃいけないんだ。決して、そんなことをしてくれるな！そうすればおれは救われるのに。きっと、私たちの心の奥深いところ、血の中に眠っている、現代生活によって抑えられているもの、動物的、本能的にして太古の昔よりひそむもの、それがなぐさめられるのだろう。

もうだいぶ前のこと、谷津遊園に飼われていた猿がオリから逃げだした。そして猿は、キャンキャン吠える犬や、手に棒やアミを持った人達に木の上へと追いつめられた。聞けば房州の山からつかまえて来た猿だと言う。木の上から猿は下に向って、カッと目を開いて、歯をムキ出し、「ガッア——」とうなっていた。その時彼の脳裏に走るものは、父や母に連れられ、木から木へと飛びうつり、沢や斜面をかけめぐって育った。ふるさとの、房州の青い山々であったかも知れない。一瞬でも憶い出していたのかも知れない。怒りとくやしさと敵意だったのだろう——。

そういう猿が棲むところと想えば、松葉杖をついたって何だっておれはゆくんた。サルだけでなく、一度でいいから、ピュウ ピュウ 北風の吹く、カナダ地方の原野の中で、あの猿の遠吠えを聞きたい。そんなぼくなのです。

('78. 1. 3)

1620

房総自然博物館

東京都文京区西片2-21-6 紅谷ビル



博物館なんていうから、何か植物とか動物を展示してあるのかと思っていました。ところが、行って見たら、そんなどの何にもなくて、上の写真のような農家の家と、ネコのひたい如きの田畑が山の中腹にあるだけ——。そこで私は聞いてみたら、ソノ答えがおもしろい、「ええ、ここはですゆえ、このまわに生えている草木、そして昆虫や動物がそっくりそのまま、生きていたことか「展示、なんですよ」と言われました。なるほどなあ、それこそうたなあ、本来はそうあるべきかと知らないなあ、そう思いました。

場所は房総半島の真ん中、鹿野山の裏です。

わが娘へ

辻村ジュサプロ

自分の顔に自信持って



日本経済 55. 7. 29

クロイウ・カネ

「お母さん、私ってお父さん似か、がっかりしちゃあな。結構するなら絶対ハンサムな人にするわ」って。
なるほど、ぼくははげがわり頭で入道みたいだし、品行方正とは言えない。でも、言ひあるまじき表現だけなら、顔はぼくの親戚だ。二枚目ではないけれど、その人生が刻まれている。よく見てごらん、悪妻、いい顔してるぞ、お父さんは、
悪妻の将来を対して、ごうあに指示したくない。そんなこと
悪いかい？ 区別をいぢいち娘に指示したくない。そんなこと
だがぼくは、これはいいか教育にしても、特別な英才教育など必要ないと思ひ、公立校に入れた。近所の子供たちと同等の話題を持ち、対等に付き合おう。本当に非凡な子は、こうした平凡な環境にあつても頭角を現すはずである。
天才とは自分に備つた資質なり機能なりを精一杯生かすことだ。魚は泳ぐ天才だし、鳥は空を遊ぶ天才だ。人間は、知恵を働かせる天才だ。悪妻にも向かがあるはずだ。それを発見してこそ一人前である。
最近、悪妻は女房の前でため息をつきながら言った。「お母さん、私ってお父さん似か、がっかりしちゃあな。結構するなら絶対ハンサムな人にするわ」って。
なるほど、ぼくははげがわり頭で入道みたいだし、品行方正とは言えない。でも、言ひあるまじき表現だけなら、顔はぼくの親戚だ。二枚目ではないけれど、その人生が刻まれている。よく見てごらん、悪妻、いい顔してるぞ、お父さんは、

悪妻もまた四五年もすれば、白粉(おしろい)のにおいがあつたとしても、他の命、肉内、平穩無事な人生を歩んでほしいと願つてゐる。
「お母さん、私ってお父さん似か、がっかりしちゃあな。結構するなら絶対ハンサムな人にするわ」って。
なるほど、ぼくははげがわり頭で入道みたいだし、品行方正とは言えない。でも、言ひあるまじき表現だけなら、顔はぼくの親戚だ。二枚目ではないけれど、その人生が刻まれている。よく見てごらん、悪妻、いい顔してるぞ、お父さんは、
悪妻の将来を対して、ごうあに指示したくない。そんなこと
悪いかい？ 区別をいぢいち娘に指示したくない。そんなこと
だがぼくは、これはいいか教育にしても、特別な英才教育など必要ないと思ひ、公立校に入れた。近所の子供たちと同等の話題を持ち、対等に付き合おう。本当に非凡な子は、こうした平凡な環境にあつても頭角を現すはずである。
天才とは自分に備つた資質なり機能なりを精一杯生かすことだ。魚は泳ぐ天才だし、鳥は空を遊ぶ天才だ。人間は、知恵を働かせる天才だ。悪妻にも向かがあるはずだ。それを発見してこそ一人前である。
最近、悪妻は女房の前でため息をつきながら言った。「お母さん、私ってお父さん似か、がっかりしちゃあな。結構するなら絶対ハンサムな人にするわ」って。
なるほど、ぼくははげがわり頭で入道みたいだし、品行方正とは言えない。でも、言ひあるまじき表現だけなら、顔はぼくの親戚だ。二枚目ではないけれど、その人生が刻まれている。よく見てごらん、悪妻、いい顔してるぞ、お父さんは、

ちよつと待って
くれ、この記事を
紹介したからって
別にリオレガ男
前だと思つてゐる
わけじゃないよ。
ただねえ、こんな
考え方もあつた
んかなあ、さう
思つてさあ、面白
い見方もあるんだ
なあ、ふうーんと、
そんな具合にさあ。

へんかんと……自然と昔か大きくなつてしまつて、まっ裸でいることガいちばんいいんだと思つてしまつた

へんかんど

第41号

1981年
9月10日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-16668
文責 木村田三郎

講談年 2000

PRINTED IN
へんかんど



提供 毎日新聞社・東 康生氏撮影 1979.5.29 於 谷津
初夏の日差し強く、すばらしい天気の日だった。当時会員一名。

蔵之助

ある日つくづく

いやになり

この川柳、実は或る人が私にくれたのである。例の、「干潟の想い出」のイラストを見て、人を介して、是非森田さんに伝えて下さりとのことであった。どうも有難うございます。今後、じっくりとその意味を噛みしめていきたいと思ひます。

ところで、私とずい分りろくな名前がついたとんだ。土人、原住民、クロマ

ニヨン、番人、気ちがい、熱血漢、埋め立つ地の「テルス・ウザラ、昔行ばさつ、そして今度の「蔵之助」と。まあ、何でさしいや、タダでくゆるとんならこの際ドンくつけていたただきますよ。でと、ほんとうはとちつと、お上品な名前がいいなあ。たとえば、〇〇の「プリンス」とかです。この川柳をくれた人は、きっと、私のこと、すなわち心境を窺ってくれたのであろう。森田三郎、正直言つて身にしみているのです……。

蔵之助

いやになること

いやになり

数年前、すでに私は、右の如き心境になつておりました。自らを「へんかんど用の木」にしました。

トポルし潟干津谷

谷津干潟保護運動

を追って

「日本でも有数の水鳥が集まる場所が、船高から、そう遠くない東京湾の埋め立て地にある。」「どう言ったら、果たして信じてもらえるだろうか。しかし、実際にこのような場所があるのだ。それは「谷津干潟」と呼ばれている場所だ。今もなお数多くの水鳥が身を休めたり餌をいばんだりして暮らしている。今回の特集では、東京湾では数少なくなった、水鳥の楽園の谷津干潟の現状と保護運動について調べてみた。

進む埋め立て

そもそも谷津干潟は、ふかんと呼ばれる埋め立ての海岸であり、子供達のお遊び場であった。ところが昭和三十年頃から東京湾の埋め立てが始まり、それまで鳥達の楽園でもあった谷津干潟から市川までの七十六キロの干潟が、コンクリートになろうとしていた。習志野市でも、昭和四十二年に第一埋め立てが始まり、袖ヶ浦周辺の埋め立てもそれほど進んでおらず、依然として潮干狩りができただけで、昭和四十五年に第二次埋め立ての話が起り、漁民が漁民権を放棄した時にも、また市民は自分達の海がなくなることは気が付かなかったのである。

日本野鳥の会のメンバーのほかに、も、学生・保育園長・大学教授・主婦・自動車修理工等の人々が立ち上がったのである。そして三月十八日、干潟を守るために「千葉

干潟が 残っていた

ところが、谷津遊園の前、またまた埋め立てのために、埋め立てが埋め立てた水面があった。埋め立ては埋め立て地に埋められ、砂地は、ヘドロにおおわれて、貝類はいったん絶滅してしまつたが、幸いカニ類やゴカイは健在だ。餌を求めて水鳥達は、この四十八ヘクタールの水面に集中した。昭和四十八年の全国干潟鳥類一斉調査によると、かつて「ふかん」と呼ばれた、この水面は全国一のシギ・チドリ類の飛来地となつていたのである。ここで、これからこの水面を谷津干潟と呼ぶ、ということになった。こうして谷津干潟自然教育園をつくらうという運動が始まった。

鳥獣保護区 指定へ

昭和五十年三月十五日、日本野鳥の会は、谷津干潟の保護についての陳情を、習志野市・千葉県に提出した。だが、昭和五十一年、習志野市は三月、県は六月に不採択とした。今度の理由は地元町と道路計画のためだ。七月末に市民に海岸道路の計画があったが、自然保護団体にはなんの連絡もなかった。九月十一日、日本野鳥の会は環境庁長官及び建設大臣に陳情書を出した。昭和五

十二年三月七日、谷津干潟を現地で視察した春日正一参議院議員は建設委員会へ、谷津干潟について質問をした。それに対しての環境庁は「谷津干潟のうち工事予定地を除く部分については、開設の鳥獣保護区に指定される見通しがついた。これについては三月十九日、日本野鳥の会の代表が鳥獣保護課長に会い確認して、その時「特別保護区にしてほしい」というご要望にたいし、「そうなるだろう」という意向も示された。一方習志野市では、市長が市議会で質問に対し、「もし国や県が保護区にするつもりであるなら、市の従来計画は変更してもよい」と答弁した。このような国、県、市の方針から保護区指定が実現される見通しができたことは沢山の鳥類愛好家や自然愛好家にとってうれしいことであった。

そして今...

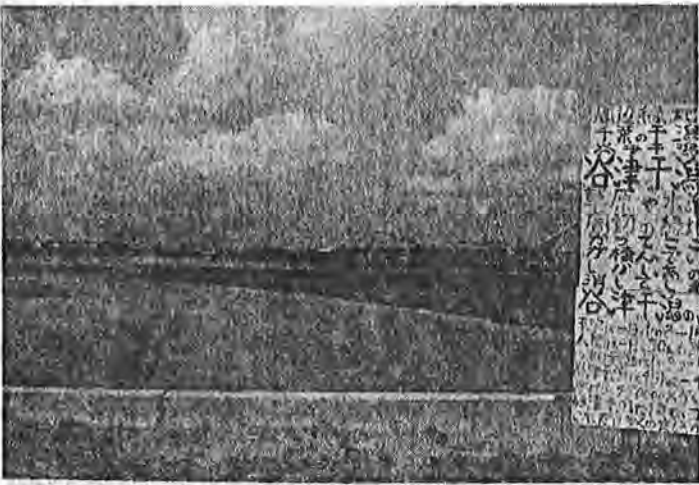
その後の動きを出版委員会を追って見た。習志野市京葉港対策室では、「国は現在谷津干潟の保存については協議中である。習志野市としては公共用地として学校等を建てる予定である。干潟には下水が流れ込んでいてもよく、住民からの苦情もある」という事であった。そこで谷津干潟保護運動をした人達の一人、森田三郎さんに谷津干潟の保存問題について聞いてみた。それによると「二年前に鳥獣保護区に指定は決定しましたが、強引に指定すると下水や管理等の問題が起きてくるのです。とくに干潟の保護は、現在谷津干潟には特に下水による悪臭や周辺の土地確保などの問題がある。取組については水路の流れをよくするために西側水路のヒューム管を取り除き、その浄化作用が期待されている。更に谷津干潟にたれ流しになっていく下水の処理について地元の方力が必要になっていく。用地の確保については昭和五十二年に陳情を出したが、その案は否決され、一部は海岸道路となつてしまった。更に、県立津田沼高校の校舎が建てられ、残りの南側の土地についても今年一月に宅地造成の案が県から出され、わずかに見返りとして当初の五十ヘクタールの案からたったの一ヘクタールに減地する案を提示してきた。その後千葉の干潟を守る会では県企業庁に陳情書を出した、という。

さて、実際に指定する立場である環境庁はどうだろうか。環境庁鳥獣保護課に電話してみた。「保護については決定しましたが、現在指定については市に交渉中です。既に指定が決定したならば、県の五ヶ年計画にいれませう。臨時の時分は国が早急に指定します。との答えであった。

特集

高校生による、初めての、本格的な、谷津干潟に対する取り組みである。彼ら船高生にとって、この谷津干潟がどう呼ぶたのか？、又、どのようなとりえたのか、その本をよく読んでいた。大切な受験勉強にいやがしいその最中、これ程のレポートが出来るとは、ただ感心するほかになかった。

我が母校の後輩がこれほどまでにやってくれて、何より、フム、



私たちは気づかなかった。

子ドリ科	ガンカモ科	サギ科
ハジロコチドリ	コブハクチョウ	ゴイサギ
コチドリ	オオハクチョウ	ハシブトゴイ
イカルチドリ	コハクチョウ	ササゴイ
シロチドリ	リュウキュウガモ	アカガシラサギ
メダイチドリ	アカツクシガモ	アマサギ
オオメダイチドリ	ツクシガモ	ダイサギ
オオチドリ	カンムリツクシガモ	チュウサギ
コバンチドリ	オンドリ	コサギ
ムナグロ	マガモ	カラシラサギ
ダイゼン	カルガモ	クロサギ
ケリ	コガモ	アオサギ
タゲリ	トモエガモ	ワシタカ科
シギ科	ヨシガモ	ミサゴ
キョウジョシギ	オカヨシガモ	トビ
トウネン	ヒドリガモ	ハイイロチュウヒ
ヒバリシギ	アメリカヒドリ	マダラチュウヒ
オジロトウネン	オナガガモ	チュウヒ
ヒメウズラシギ	シマアジ	ハヤブサ科
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ	シロハヤブサ
ウズラシギ	アカハシハジロ	ハヤブサ
ハマシギ	ホシハジロ	チゴハヤブサ
サルハマシギ	オオホシハジロ	チョウゲンボウ
コオバシギ	メジロガモ	チョウゲンボウ
オバシギ	アカハジロ	フクロ科
ミユビシギ	キンクロハジロ	トラフズク
ヘラシギ	スズガモ	コミミズク
エリマキンギ	コケウタガモ	ヒバリ科
コモンシギ	ケウタガモ	ヒバリ
キリアイ	クロガモ	ハマヒバリ
オオハシシギ	ビロードキンクロ	ツバメ科
シベリアオオハシシギ	アラナミキンクロ	ショウトウツバメ
ツルシギ	シノリガモ	ツバメ
アカアシシギ	コオバガモ	アトリ科
コアアシシギ	ホオジロガモ	アトリ
アオアシシギ	ヒメハジロ	カワラヒワ
オオキアシシギ	ミコアイサ	マヒワ
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ	ヒヨドリ科
クサシギ	カワアイサ	シロガシラ
タカフシギ	カモメ科	ヒヨドリ
メリケンキアシシギ	ユリカモメ	モズ科
キアシシギ	セグロカモメ	チコモス
イソシギ	オオセグロカモメ	モス
ソリハシシギ	ウシカモメ	セキレイ科
オグロシギ	シロカモメ	キセキレイ
オオソリハシシギ	カモメ	ハクセキレイ
ダイシャクシギ	ウミネコ	セグロセキレイ
ホウロクシギ	ズグロカモメ	マミジロタヒバリ
シロハラチュウシャクシギ	クビワカモメ	ヨロップバビンスイ
チュウシャクシギ	ミツユビカモメ	ピンズイ
ハリモモチュウシャク	ソウゲカモメ	セジロタヒバリ
コシャクシギ	ハジロクロハラアジサシ	ムネアカタヒバリ
ヤマシギ	クロハラアジサシ	タヒバリ
アマミヤマシギ	ハシクワクロハラアジサシ	ホオゾロ科
タシギ	オニアジサシ	シベリアジュリン
ハリオシギ	オオアジサシ	オオジュリン
チュウジシギ	ハシフトアジサシ	ホオゾロ
オオジシギ	アジサシ	コジュリン
アオシギ	ベニアジサシ	ヒタキ科 ツグミ亜科
コシギ	エリクワアジサシ	ジョウビタキ
セイタカシギ科	コシシロアジサシ	ノビタキ
セイタカシギ	ナンヨウマシシロアジサシ	ウウイス
ソリハシセイタカシギ	マミシロアジサシ	コヨシキリ
ヒレアシシギ科	セグロアジサシ	オオヨシキリ
ハイイロヒレアシシギ	コアシサシ	ツグミ
アカエリヒレアシシギ	ハイイロアジサシ	セッカ
ツバメチドリ科	クワアジサシ	ムクドリ科
ツバメチドリ	ヒメクワアジサシ	ムクドリ
タマシギ科	シロアジサシ	カラス科
タマシギ	クイナ科	ハシホソカラス
ミヤコドリ科	クイナ	ハシフトカラス
ミヤコドリ	オオクイナ	
カイツブリ科	ヒメクイナ	
カイツブリ	ヒクイナ	
ハジロカイツブリ	シマクイナ	
ミミカイツブリ	マミジロクイナ	
アカエリカイツブリ	シロハラクイナ	
カンムリカイツブリ	パン	
ハタオリドリ科	ツルクイナ	
ニョウナイススメ	ホオバン	
ススメ		

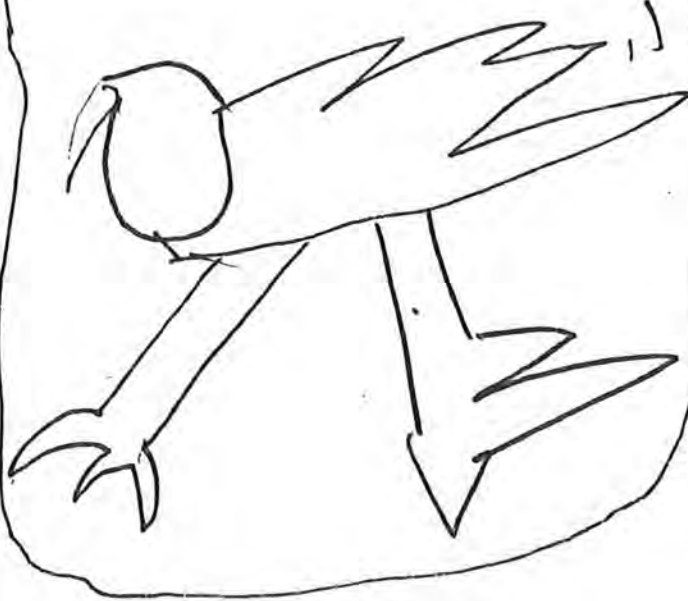
9月3日 篠田 利恵子
 私のおとにいてあるのは、私の友達です。
 また森田せんはいにありたくて、きたのですか。
 あえなからたので、いっにならだらきてくれるので
 すか。

9月3日 阿部裕子

質問 鳥が見たいので、第何日曜日に来れば、ほうえし
 きょうまたわめうかんきょうをかしてくれるのでか?

ツリカメのやつ他のちいさいシロチドリたちをおかけ
 ておにかおもしろいんたいヨ

千葉市真砂 3-1-10



こみね 年のりふみ

谷津干潟
 野鳥通信箱



自然緑地で野鳥観察の看板作り
 (谷津干潟ボランティアグループ)

ふかんど

オ42号

1981年
 9月11日

谷津干潟愛護研究会
 千272 市川市本北方二丁目三五八
 電話0476-1166六八
 文責 森田三郎

講読年2000

PRINTED IN
 ふかんど

お振込は千葉銀行012-54253
 谷津干潟愛護研究会

石川勉氏調査

へふかんど...つるべ井戸の流し...海からの「獲物」を、子供鹿が品評会や「市」をや...
 りた垣...V

トポシ干潟谷津

干潟の番人

森田

三郎さん

私たちがこの特集の取材のために会った人の中に、森田三郎さんがいる。たぐさん語をしてもらった上、谷津干潟関係の資料を貸してもらい大変お世話になった人である。森田さんは「干潟の干潟を守る会」の会員で、自分でも「谷津干潟愛護研究会」を組織して、谷津干潟を残すために積極的に活動している。おそろしく森田さんほど一生懸命に活動している人は他にいないだろう。新聞販売店勤務のため、午前九時頃から午後三時頃までは仕事がなく、その間はほとんど毎日のように市川の自宅から自動車で行くやってくる。

今までの森田さんの主な活動を紹介します。

四年半前、森田さんが干潟を守る会に参加した頃、干潟は捨てられたゴミと、流れ込む下水のため、「トプ池」同然だった。まず最初の仕事は、「トプ池」の掃除だ。入場客の出すゴミを平気で干潟に捨てた谷津遊園や、埋め立て工事の汚水を流す県企業庁にかけ合い、また自らの手でゴミとヘドロをまみれながら、干潟の美化努めたという。

次に、干潟にたぐさんあった流木や腐材を拾い集め、きれいに洗ってベンチやテーブルを作った。このベンチを作った時、県企業庁は、不法占拠として撤去を求めたが、野鳥観察などで干潟を訪れる人たちが非難の声が上がり、ベンチ撤去はとりやめになった。私たちが取材に行った時はもう干潟はかなりきれいで、問題となっている悪臭もほとんど感じられず、決して「トプ池」などではなかった。最近では「谷津干潟少年団」ができて、子供たちが森田さんと一緒に、例のベンチに色とりどりのペンキを塗ったり、トプ池ポールの作ったしりしり、すいぶんにきやかになっている。一度干潟を見に行けばわかると思うが、干潟周辺には、ベンチをはじめ、立て看板、投票箱等がたぐさんある。これらのほとんどが、森田さんの手によるものである。

また、森田さんは京葉港、幕張、浦安、葛西の各埋め立て地合計二五〇〇ヘクタールを踏査し、シロドリ、コチドリ、コアジサシの全営巣数の調査をしている。延陸距離一〇〇キロメートル、これをたった一人で仕事の合間に行っているのは並大抵のことではなかったらう。この調査によつて、三年前は八〇一七あった巣が、昨年の調査では二五六に減っていることが明らかになった。森田さんによると、野鳥の巣の破壊の原因は、人為的なものが少なくないらしい。ブルドーザー、砂防のためのコールドール散布、測量、杭打ち、ヘリコプターの着陸訓練、野球、ゴルフ、子供のいたずら等々、また風雨やカラス、カモメ、野犬等のため、無事巣立っていくのは、生まれた卵の二〇パーセント強といった所だそう。森田さんは、人為的破壊をできる限り防ぐため、近くの小学校に、鳥の卵に対する注意を促したり、工事関係者や警察等にヒラを配ったりして、鳥の巣に対する注意を促した。珍鳥セイタカシギが飛来した時も、一部の無神経な野鳥観察家などによる刺激を防ぐため、日中交代で見張りをしたそう。

その他にも挙げればきりがない程、森田さんは谷津干潟のためにつくしている。議会への陳情等の表だった活動とは異なって、このような活動は地道ではあるが、「谷津干潟自然教育園」実現への大きな力となっている。

森田さんは少年時代、船高の近くの宮本町に住んでいて、当時はまだきれいな近々の浜で毎日のように遊んだそう。裸足で海に入ると海草の間から魚が出て来る、干潟ではカレイやワナオキがおもしろいようにとれる。そんな海だったそう。森田さんはその頃の思い出をなつかしげに語ってくれた。森田さんにとって干潟は遊び場であると同時に勉強の場

でもあった。自然から教わった事は数知れないという。森田さんが谷津干潟の保護運動を始めたのは谷津干潟問題を伝える新聞記事の写真に、昔、子供のころ遊んでいたのを見て、「もしかしらなければ自分が昔遊んだ『ぶかん』ではないか。」と思ったのがきっかけだそう。

今の子供たちは、このような遊びを知らない。「谷津干潟少年団」の子供たちの中にも、ナイフもろくに使いこなせない者がたぐさんいたという。森田さんは、「この頃は、赤銅色になってかき回る子供の姿が見られない。」とか、「昔の船高生は、色が黒くてもっとたくましかった。」(森田さんは、船高定時制のOBでもある。)などと、多少淋しげに話してくれた。



谷津干潟の鳥たち

干潟に来て、誰にでも見分けのつづの、シラサギだ。今は、ダイサギとコサギという鳥がいる。彼らがエサを捜している姿は、実にエモラスである。特にコサギは、黄色い足先を水の中で洗っているかのように、パシャパシャと動かし、見つけると、今も曲げて噛んでいた首を素早く伸ばしてエサをくわえる。

シラサギの他にアオサギというのがある。体は、青というより灰色である。私が見ていた範囲のことであるが、アオサギは、じつと止まって片足を立っている方が多かった。何かの本で、「一本足で水の中に立っている時は、足を代えて、冷たい水の中でも長時間立っていることができる。」と読んでいたことがあったので、ずっと遠慮観とにらめっこをしていたが、ち

よつと目を離したすきに足を代えていて、どうも見るのができなかった。

肉眼で、ちょっと見ただけでは分からなくても、望遠鏡をのぞくとたぐさんの鳥たちが見えて、まるで別世界を見たような錯覚に陥る。シロドリのように小さな鳥は、こうしてみると結構大きく見える。シロドリは、一回くちばしを水につけてエサをとると、ツツと小走りで前に進み、またそこでつづいて、前に進んでいく。あれが俗にいう「チドリ足」なのかと思うとおもしろい。辞書の活字だけでは満足しない人は、ここにきて、自分の目でしっかり確かめたいだろう。

最後に

これまでの記事を読んで、皆さんはどんなことを感じましたか。この谷津干潟は、私たちの身近な所であって、重大な問題を抱えているにもかかわらず、私たちのほとんどは気付かず見過してきてしまいました。自然保護が叫ばれている今、ここで少し見直してみよう。それに、現在の「谷津干潟」ということばの裏には、野鳥の会などの地道な活動があることも忘れてはなりません。

また、野鳥に少しでも興味をもった人は、干潟に足をのぼしてみてはどうですか。きっと、御期待にそえると思いますよ。



彼らは何も知らない……

あと、干潟に来て容易に見られる鳥ではないが、セイタカシギがいる。この鳥は、全国で二ヶ所、ここと愛知県岡田干拓地だけが記録されていない珍鳥である。特徴は、体長三十センチメートル、とがった細長いくちばし、胸は白、翼は黒で、人がうらやむほどのスラリと長い足。今年は、五月

これほどよく書けるのは、中々ありません。

へんかんごー堤防を境にして、ま水の生物と海水の生物が共存し、そして障地争奪戦をやってきたころー

ふかんど

号43

1981年
9月2日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六
電話 〇三三-一六一六六六八
文責 本田三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

前略

先日はわざわざカバンをこけていただきましてどうもありがたうございました。
カバンをこけられてしまった。でもかなしかたの事です。実をいいますと中間テストが近くて、志望校のこと、クラブに出られなくなってしまうんです。(申しおくれでしたが、私はヨット部に入っています)ほんとは数学で志望校をこけてしまったんで、助かっています。
私、ヨットが大好きなんです。それで帰りがおそいので母がこめてくれるからなんです。そしてこの事件、とてもおこられておめなすともいわれたんですけど、本田さんのおかびごめめすこすめました。ほんとはほんとは、ごうもありがうございまして。
それから、わざわざまきまきなものもありがうございまして。草花や小鳥には少し興味があつたので、時間ができたら、そちらへ行ってみようと思つています。
それでは、お体に気をつけて。
おしごとがんばって下さい。
よいよいなら

5月18日

本田田様

今村まろ

・・・あの娘さんがねん・・・

滋賀国体が十三日から開かれる。右の手紙の主、娘さんが、千葉県代表の選手として参加する。もちろん「ヨット競技」だ。

谷津干潟の丘くに船橋卸売団地があり、その中に「いーしぎ」という喫茶店がある。そのママさんから聞いて知ったのである。ママさんの娘さんとヨットが大好きで、やはりヨットの代表選手として参加するとのこと。高校生だ。手紙の主の娘さんと同じ高校だとわかった。県内で唯一のヨット部のある、磯辺高校。同じ三年生。

手紙の、コトの次第はこうだ。今から二

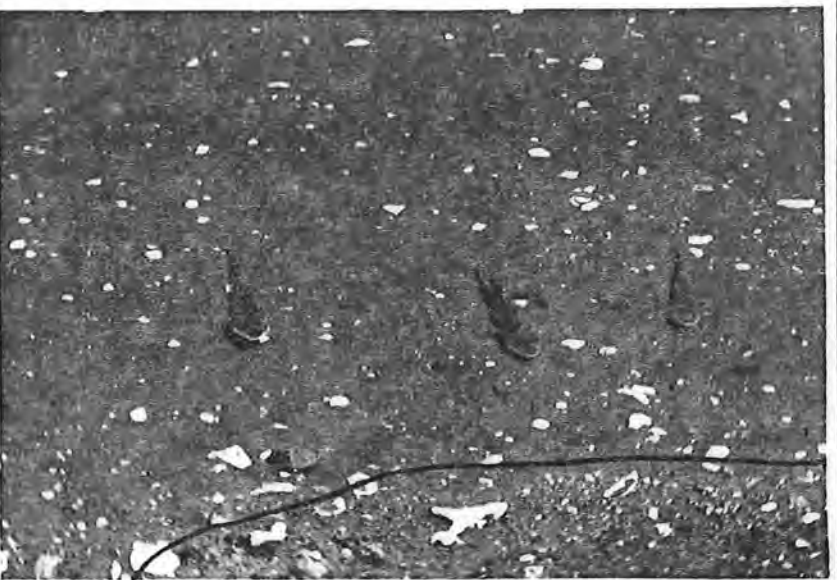
た。バッグにはローマ字で「ISOBEL」と書いてあった。その時はスポーツメーカーだと思つた。中を開けると、スポーツシャツの類と教科書だった。住所は幕張とわかったが、名前は今村としかわからなかった。女性ものだったので、後の始末、洗たくと乾燥などは全て母がしてくれた。いーて、幕張で人に尋ねながら、どうやら届いたのであった。お母さんから、その時、「うちの娘はヨットが大好きなんですよ。おーい」と聞き、私は「フーッシー」と思つて聞いてみた。

ママさんから、娘さんのヨットの事を聞き、「いーい言えば、以前コンナ事があったよ」と言つた、ソレがコトの次第のソキサツである。

本当に、あの娘さんがヨットを操縦できるのかなあ、オレは信じられないよ。



ここは、東水路が干潟に出ってきた所です。苦しくなつて魚たちは水の表面に浮き上がり、次々と氷いできて来まいた。先を争つてウミミネコガ群がり、やかましく鳴きながら魚をとつていりますのです。人間のすぐ近くでです。



青潮が出た日(9/1)谷津干潟でこんなことが



潮といっしょに魚の群と入って来ます。イムをゆらつてダイサギの群が岸近くになりがまいました。

苦しいのでハゼは、群を成してみんな水ぎわに集つてくるのでした。黒の線が、水と陸の境です。他の所とどうでした。

おとしろい本
「アウトサイダー」
「青ナイル」
「白ナイル」
「アレン・ムーアヘッド」
「我らの行く道」
「フラクリン・D」
「ルーズベルト」



1980.11 朝日新聞

◎幕張の浜に珍鳥

千鳥



日本にはほとんど見られない珍しい鳥「カウシンカ」が千葉県市原市の人工の浜に飛来しているのを、この日は習志野市旭ヶ浦三丁目、谷津干潟保護研究会井弘さんが撮影、東京の日本野鳥の会に報告した。習志野の浜は大きなカウシンカが飛来して、鳥が黒い。体は黒いがかかったが、色は赤い。この鳥は日本の部分が多い。その大きさは日本の黒い鳥がもっと大きい。日本野鳥の会が撮影したカウシンカは、この鳥の大きさをわかった。このため、日本野鳥の会が調査部長を同行、撮影していった。

カウシンカは中国大陸とヨーロッパ東部、地中海の西部沿岸、北アフリカに生息している。国内では本年7年、昭和47年、49年に東京・大井、習志野市旭ヶ浦などで確認された。野鳥研究者で、大井、習志野市旭ヶ浦に生息している。この鳥は、日本の鳥の会は「はかの鳥の群れに混じって、習志野のコースからはずれたのか、自らの気配の悪化で押し寄せた」と推測している。

資料

朝日新聞 1980.11.23

セイタカシギが2羽

習志野の埋め立て地

干潟愛護研が保護に力



習志野市旭ヶ浦の谷津干潟(ひがし)に先にも埋め立て地に珍鳥のセイタカシギが羽来している。この鳥は谷津干潟保護研究会の森田三郎会長(右)が撮影した。谷津干潟に生息している。この鳥は、日本の鳥の会は「はかの鳥の群れに混じって、習志野のコースからはずれたのか、自らの気配の悪化で押し寄せた」と推測している。

ふかんど

号44

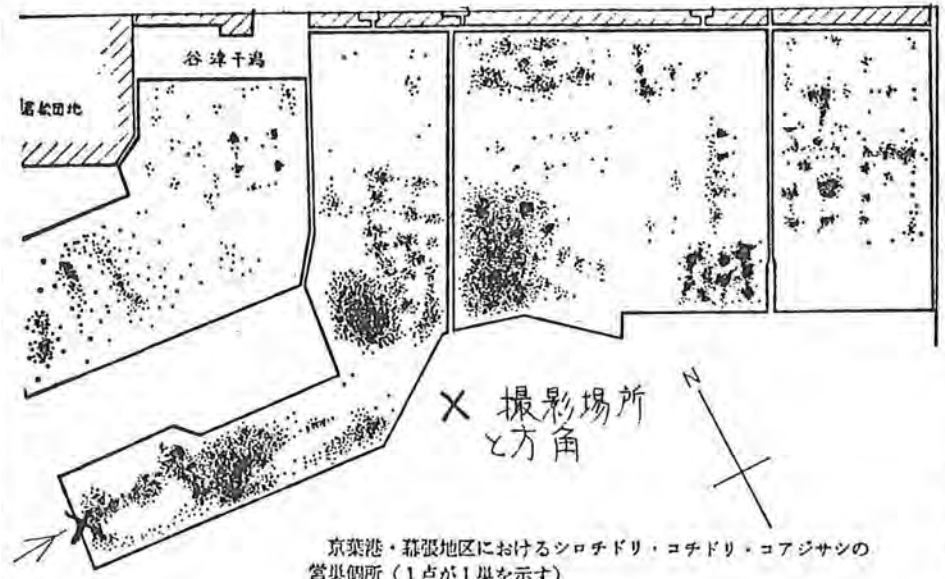
1981年
9月13日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五ノ六
電話 043-511-6668
文責 木田 三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

へんから、「三郎、お前はあの榎から生まれただのだから、あの枝に大國の日にいふかかっていたのだ」と言われ、私はやるとこ



「これがまたの、夏の日々と、ヤギ、
想い出となりて語る時がくるであろう。」

この巨大なコロニー、繁殖の海原、と
そのすべてが消え去った時、静かにして平
安な心をとり、私と埋め立て地の出
来事を顧みるのであろう。

長くて激しい、精力的な調査だった。こ
れをみんな、「想い出」となるのだ。そう
思うと心の中に安らぎをおぼえた。そして

「このか、な」ということは殆んど念頭に浮かぶ
ことはなくなりました。又、自然保護とか
、どこぞの会員などということも、はるか後
方にしりぞいてしまったのである。

ずい分と心が励まされたのであ
った。気が萎えた時、暗く弱く
なった時、私は何回も自分に言っ
て聞かせたのである。

くる日も、広い埋め立て

地を歩きまわろうと、私がこれ
をするのは何の為か、何の価値があ

渡り鳥と白くまばしい貝ガラ、夏の太陽と熱
い砂、草原と潮の香、水たまりに生い茂るヨ
シとガマの群生など、そしてその他もろくの
こと。そして、そして私の胸に介在するものは、
何もなくなっていました。そして、結局、私は
好きだったのだ。

京葉港・幕張地区におけるシロチドリ・コチドリ・コアジサシの
営巣個所 (1点が1巣を示す)

8月4日(日)
強い太陽の中は観察のために森田さん(屋根)を
けいこいこさんばら、いる。また知物が増える。
今日はハイキングがいろいろある。ついでに。
10:07 Y.K

8月3日
はぜが、~~ちやん~~ ジャンジャンつ
れた。(737でいき) ゴカイ(はぜをつる
えき)もたくさんあった。
おじさんのいごを手伝った。
(三人の内二人)(大泉前川)
いいきもちだった。

8/20 12:00 久しぶりに干潟に来てびっくり 1つも来ず時は。
暑いので水分をたっぷりおてくのに今日は、草で屋根もふいて
すばらしい観察場所ができています。これから谷津干潟の
自然を守るためがんばって下さい。 埼玉県和光市 須藤

8月4日、
12:45 曇り 個人研究のため干潟へはこいで
三回目(夏休みのみ) この探鳥会は、森田さん(屋根)が
出ている。いわは 常連客(宿?) 二へ来てはたいがい
い相場がさかっている。ときにはちやんかきせらいたん。
(改修中化り) それから一言 環境美化キャンペー中は
絶体ぶきを持ち帰ろう! (音波もやってほしい)

楽園の子供達

網曳きじいさん

絵と文 森田三郎

—干潟の思い出—

今から三十年くらい前のこと。
谷津干潟の近く、少し沖の方へ行
ったあたりで網を曳く、ひとりの
じいさんがいた。そのじいさんは、
キセルをぶかしながら、麦わら帽
をかぶっていた。そして、ゆっ
くりゆっくりと、のんびりと、た
ったひとりつきりて網を曳いてい
た。そのじいさんをぼく達は「網
曳きじいさん」と呼んでいた。

海へ出るには、銀色にひかる砂
道があった。ユラユラとかげろう
ガのぼり、真夏の太陽で砂道はと
てもまぶしかった。

「フカフカ」と裸足で歩い
てゆく、赤銅色に焼けた干潟の子
供たち。サラサラした砂道に
なかもぐりそうなる足の指の間か
らは、砂とホコリが「シューウッ
シューウッ」と噴き上げるのだった。
砂道のすつと先には、キラキラ
ひかる海がちよつと見えていて、

かけるつゆゆれていた。
砂道の左側は松林と草むらで、
と「ささや」に水たまりもあつた。
だから、ときどきはく達の鼻には
松と夏草と水の匂いが、いれかわ
りヒクヒクと入ってくるのだった。
右側は浜辺だった。海草がぶ
厚く積もっていて、その中を歩く
のは又ル又ルして気が悪かった。
「あーちつちつ」と言いながら
ぼく達は、草の上や水たまりの中
へ走っていった。足は冷たした。そ
れほど銀色の砂道の砂はとつても
熱かつたのだ。それを何回もくり
返しながらか、海へ、沖へと歩いて
行った。

イトスワリンのように広がった。
胸に空気がいっぱい入ってくるよ
うだった。そんな時は、大人も子
供も、自然と大声をはりあげたく
なってしまうのだった。強い潮の
香りと海草の匂いで、身も心も躍
動せずにはおがなかつた。「キャ
ッホーギヤアホー」と叫びな
がら、ぼく達は広い干潟の中を、
さちがいのように駆けまわつた。
そして、沖へ沖へと出ていった。
その沖のただ中に、白い大きな
入道雲の下に、ボツンと点のよう
に、じいさんの姿があつた。
じいさん目ざして、ぼく達は大
人のように、また、背よりも高く
水しぶきを上げてかけていった。
近づいて「じいさあーん」と言
うと、「来たな、ガキめらあ」と
言った。そこでいっしょに網を曳
かせてもらうのだった。
固い綱と潮の匂いは、子供の心
と体をかきたてるものがあつた。
じいさんが、「おつ、すげえな、
すげえな」と言うとき、なおも力一
杯網を曳くのだった。
曳き終わると、スズメの子みた
いに並んで、両手をおわんのよう
にして差し出した。手の中へ、じ
いさんが銀りん踊る魚を分けてく
れた。その銀りんの輝きと、手の
感触と、顔にかかる滴は今でも憶
えている。
もらった魚は、潮だまりでつく
つた、ぼく達の「魚の水族館」に

(月刊・ならしの)



放してやった。そして貝ガラや砂
や海草などで「魚のおうち」をこ
さえてあげた。その中へは、また、
カニや貝、ヤドカリやイソギンチ
ヤフやウミホウスギなど、取れる

ものは何でも入れてやった。そう
すれば、きつと魚も淋しくないよ。
子供のぼく達は思っていたのだつ
た。

へ表、畑や果の花畑、野原の向うに黄色い大きな月が出ると、急にお腹がすいて淋しくなり、歌をうたうまぎらわしく帰ったこと

ふかんど

第45号

1981年
9月13日

谷津千鴻愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 〇四七二一 六一六六八
文責 木林 田三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

マシマガンのように、ほとんどの毎日「ふかんど」を発行され、
又、左に、お送り下さる有難う。森田先生の情報に
うなずきます。独立しての活動をやり始められたお返し
持ちよこゆかりです。あなたが一番いそいそやれや
り方でなさるのがよいと思ひます。やれようによいよ
か住民運動にいちばんお喜ぶことと思ひます。又、た
けにあまりムリとしないで下さい。くれぐれも自愛のほ
いさ。お礼の気持ちをこまめに。 九月四日

辺りで、少いで整理して
おきたりと思つた。
三、何事に限らず、忘れな
りうちに記録に残しておき
たかつたから。
四、今まで、他の団体の全
員として、いろいろなこと
やったり、書いたりしてい
ました。でも、年を加え、
行動を重ねるうちに、違和

お手紙、有難うございました。

自愛、自重しなければいけないと、正直言
つて、そう思っているのが本心です。確不
に、私は少々ムリをしております。今は、
理由と考えられるのを、いくつか申し
上げたと思います。

一、資料が散逸する為。

写真・記事・文書など、出来たかぎり残
してありますが、人に貸したり、私自身だ
けがなりの為なくしてしまつた事が何回あり
ました。それではこの際、全部とはいか
なまでも、なるべく会報の中へ入れておきた
りと思つた。ようすれば、人に聞かされた時
、いちぐちあちこちから、関係したものを
集めなくては、ハッキリ言つて、大変面
倒になつてきたからです。

二、私が谷津千鴻の保存にかかわつて来て
から、すでに七年近くに及りました。この

感が大きくなり、いつまでも、そういう自分
に耐えられなくなつた。だから、形にしな
かつたもののほうが、表わしたもののよりはるかに多
かつた。その数は増えるばかりだつた。
活動して来た時の半分以上の月日を、孤独と
悩みに向つてしまつた。

一、まあ、ざつとこういうところでは、余
り真面目にとらなつて下さり、はずかしい
私は、谷津千鴻を何とかして残したい、どう
にかして守りたい、この七年間、ただひたすら
にそれを念じ、生きて来た。

谷津千鴻の為に、何かできたことはないか、
少しでもその役に立つことはないかと、四六時
中思ひ続け、考え、捜して来た。私は、自然保
護とは何か、あるいは、どうあるべきかなどと
いう事は殆んど考えたことはない、又知らな
い。私がいつか思つてきたことは、「もしお前が
谷津千鴻の身だつたら」と、その一事であつた。

くこの手紙は、高崎裕士氏のものです。高崎氏は、「入込権運動」を全国的に推進している中心的な人です。

●もし何かを書いてくれるのでしたら、「葉書き」に書いて下さい。それがいちばいいりから---

お振込は千葉銀行012-54253
谷津千鴻愛護研究会

もの見方はいろいろある。目で見る他に、嗅いでみたり、触れてみたり、触ってみたりする。われわれはこれら五感をすべて動物員してものを知ろうとする。動物園は動物の知識普及のため、博物館相当施設にあげられている。そこでは人々は動物を目のおりにして、本物の大きさを目で見、においを嗅ぎ、鳴き声を耳にすることが出来る。

みる

視点

増井 光子

(多摩動物公園係長・獣医)

それは注意しなかった観客の方が悪いのだと切り切つて済ませられるアメリカとは、日本は大分事情が違うので、大抵の動物園には、人止めサインがあり、動物は観客から遠ざけられている。

は観客から遠ざけられている。とて動物園で人気のあるコーナーをみると、類人猿やゾウ、キリンなどの異国の動物たちと並んで、ヤキやウサギのコーナーもなかなか人気がある。珍しさの点からすれば、後者は前者の比ではないが、これら両者の人気は、触れてみたり、嗅いでみたり、触ってみたりすることの出来ることと、感動を呼び起こせることの出発点。なじみ深い動物を集めた子供動物園が、今各地で人気を得ているのも、うなずける。

心に残った記事
いいなあと思つた記事
私の日記「南拓」には
ておいたものです。

横浜国立大学環境科学センター
一教授 岡本 淳一 氏
毎年夏休みになると、大人になつてしまつた私も、あの楽しかつた虫取りの思い出がよみがえつてくる。
動物を求めて林中にわけ入つて行く時の心のときどき、たれにも教えないワウワタの集まる秘密の木、手づかみしたたいた虫の感触に全身がどよめきあつた感動。今の大人たちはいかにうらやましく、こんな楽しみを取り上げられてはなるものか、と子供たちは言いたいことだらけ。

子供の虫とり禁止するな

本能的な欲求の対象

体系壊したのは大人なのに

私の主張

がゆかないのである。
一般に虫採集や虫取りがいつまでも盛んなのは三つの理由がある。第一は学問的に貴重な生物が減ること、第二は生きものはやたらに殺してはいけないこと、第三には自然の生態系を破壊してはいけないことである。さて、子供たちのために二つ二つ反論してゆこう。
まず第一の点は、虫取りとはほとんど無関係である。子供たちの動物の対象となる虫は、その大半が全面的に普通の種であつて、学問的に貴重な、保護しなければならぬような種は含まれていない。限られた場所に生息地が限定されているような珍種を集中的にねらい取りするのは、こゝろ虫の収集を趣味としている一部の大人たちなのだから、彼らが良識をもつて行動して行ければそれで済むことである。
第二の点、すなわち生命の尊重という点であるが、大人たちは魚を取り、牛を殺し、コキアを

8/21 前からこの谷津にすんで12年 海とはおなじみです。ほくの家はのう家で12年じらり前はこの海がうみでのりがとれたのでのりのようにおをやってきたのです(かしうめたてとおせんによりそれがてきれたのでこの谷津から海がさえてしおのてはたいたかと思つたこともありましたしかし ~~このころ~~ 数年前からどんとんきれいになりこのころではアカリなといふ鳥たちの楽園となりましたこの海を二と前のF312へド口たうけにしては川けなりと思つたこの海休せつをいにつぶせはしたいのこのころ見にするのはりりけとゴをすてる人がいよとこにおる このころ白鳥しこササ思ふ かとこも思ふは海を1日に10見るとおちつかない人
谷津 三代川 Y 宇がまたなこおれせん
だんちかたつのはるんこはんたり

谷津干潟通信箱
ーみんなの声ー
長い間、失望と忍耐の連続でした
が、ようやく皆さんなじんてくれ
、よく書くようになりました。

酒井千鶴

ハタマムシは榎が大好きだ。麦ワラ帽子をかぶり、トリモチ竿を肩にいて、草ムラの中、榎の梢と夏雲を

ふかんど

第46号

1981年
9月14日

谷津千潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二ノ三五ノ六
電話 0422-516668
文責 木村 田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

谷津千潟通信箱
みんなの声

日曜日 天気 晴れ

昭和56年9月13日(日)

武蔵野自然クラブ野鳥教室
東京都武蔵野市教育委員会内

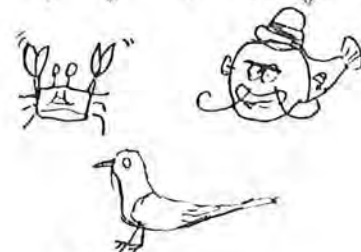
I LOVE YOU

0422(52)-0195ウリ

小松敏志 井ノ頭六年一組
谷津千潟に来てかにかが多かった。
(観察おもしろ)

この鳥の住める自然を大切にしよう。
ゴミは持てかえりましょう。

谷津千潟 バンザイ!!! &



相馬代世富 武蔵野市
桜井昌文 野鳥の会
松田泰文 みんな
小松敏志 よろしく

自然をこわすな!!!



「土人小屋」に着くと、長塚氏が「よあーっ」と、あひさつをしながら出て来た。いつもは午後からなのに、今日は午前中に来ていたのだ。歩きながら彼は言った、「今日は武蔵野のふから、こみみな来てんだっ」と。見れば、小・中学生を中心に、50人ぐらゐ土人小屋のまわりにはいる。さらに長が言うには、「そんでさあ、これはゆえ、武蔵野市がさあ、東京の野鳥の会に金を出してゆえ、こゝろ計画を作ったさあ、それ頼んでやってもらって」

武蔵野市といえは、かなり遠り所である。しか、今の谷津千潟には、とつと速くから来るのとめづらしくなくなっている。群馬、埼玉、栃木のほうからでとよく来るのである。それも団体で、何十人単位といった具合にだ。
以前だったら、千潟に来る人間の大部分は顔見知りの人であった。それが、今は、殆んど知らない人ばかりである。年々その数は増えて来る。「ああ、オレもいつまでも、パンジー一枚でスコップやペンキを持ってウロチョロしてはいけな、ソナナ時代になったのかあ」と、土人小屋の中から千潟を見て思っていた。

私のエッセイ

天文学者

◎ 斉田 博

天文学を発展させてきた人たちは、いうまでもなく多くの天文学者、前紹介したりつた。そのため中学を四年で中退した。そして一般の人々が想像する天文学者とは全然異なる人々である。最高学府を卒業し、世の中の雑事に背を向け、星雲ばかりをながめている人というイメージを抱く人が多い。『星雲ばかり』というのは、いさかオーバだが、学歴である以上、大学を出た人が多いことは確かである。

しかし、教育を満足に受けることもなく、ただひたすら手作りの望遠鏡を通して天体を研究してきた人たちらちも少なくない。

これらの人たちは、学歴の不足を補うために余りある努力をこらして、アマチュアの持ち主であるだけに、私は特に愛敬をおぼへて、学歴の有無で人間を評価しがちな社会の中において、これらの人たちがあつたことを喜ぶべきである。

学歴ハンデ乗り越え

ベッセルは十五歳のとき、貿易商のもとへ無給の年俸奉公へ出た。そのため中学を四年で中退した。そして一般の人々が想像する天文学者とは全然異なる人々である。最高学府を卒業し、世の中の雑事に背を向け、星雲ばかりをながめている人というイメージを抱く人が多い。『星雲ばかり』というのは、いさかオーバだが、学歴である以上、大学を出た人が多いことは確かである。

しかし、教育を満足に受けることもなく、ただひたすら手作りの望遠鏡を通して天体を研究してきた人たちらちも少なくない。

これらの人たちは、学歴の不足を補うために余りある努力をこらして、アマチュアの持ち主であるだけに、私は特に愛敬をおぼへて、学歴の有無で人間を評価しがちな社会の中において、これらの人たちがあつたことを喜ぶべきである。



トンボウとその仲間が冥王星を発見したロー

私はよく、気が滅入った時など、フラリと、中小企業の社長、経営者のところへ行くのだ。こゝとこゝと話をするわけではないが、たとえ短りひと時であつても、心がシャッキリするからだ。だから、トンボウのこの記事をとって置いてよかった。

には博士号が贈られた。この抜で、彼は客へのサービスに精進をこらして、ドメインにおける近代天文学の開祖となつたのである。

学歴よりも実力を評価する風潮はアメリカにも見られる。その典型的な例がトンボウという天文学者だ。彼が一九〇九年に、ケルン大学で博士号を授けられたのは、その学歴がなかったからである。彼が一九〇九年に、ケルン大学で博士号を授けられたのは、その学歴がなかったからである。

この3人の小学生たちは、夏休みの宿題に、自由研究のテーマに谷津干潟の生物観察をしている。更にマメにノートをとっていた。私の時とはだいぶ違います。

おもしろい、何書こうかなあ〜

とにかく作りた、やら夏休みの干潟で子供達は... 完結しました。この後も干潟の中で、泥だらけになって遊んでいました。親も承知のこと。

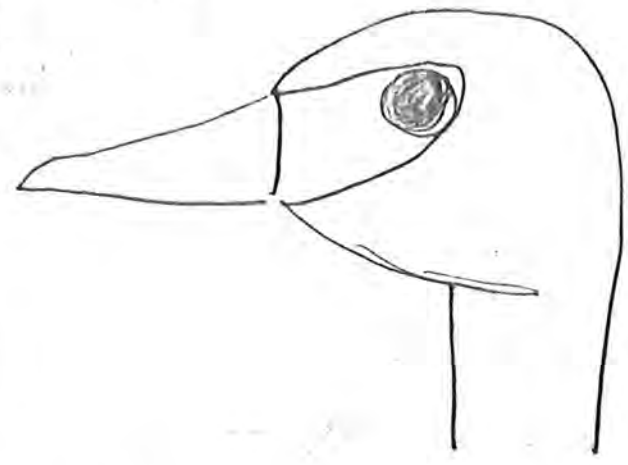
ぼくたち、土人小屋作ってやる;

手足を傷だらけにして、やっと出来たあ



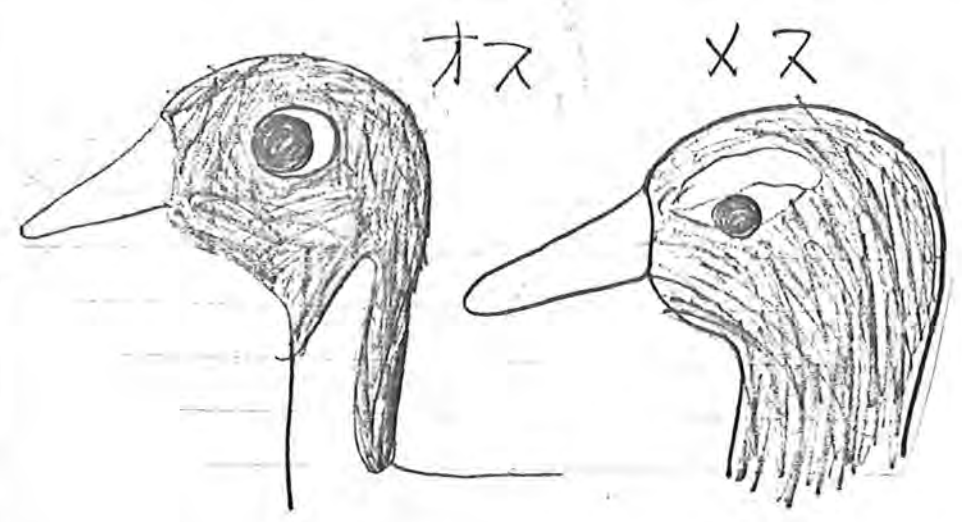
谷津干潟の鳥の通信箱

ダイサギ 85cm



16cmキ

4わオナオナガカモ



千葉県 真砂 3-1-7

がんばって、自然を穿りましょ!!
 付近の人々がもっと意識して、干潟を寂らしてあげたい。
 何年たっても鳥の楽園であるといいですね。
 津田高生

もっとたくさんいろいろな鳥がくればいいと思います。
 ついでに 高速道路各がなくなれば、鳥はいっぱい来るんですが...
 津田高生

谷津干潟は、千葉県の一帯の名所になるように。
 がんばってください。
 津田高生

鳥さんたちのために、そして津田沼高校の名物のために
 ひがたは、つるべまじはなしと思います
 津田高生

9/14

人間は自然を支配するのではなく、自然と共に生きるもの
 なのです。ゆえに、谷津干潟は、なくしてはならないもの
 だと思います。
 津田高生A

「すみません、ボクここでいろんなことをやってるモンです。そついなんかをして拾ってるんです。ゴ、ゴミなんだけども、いいんで、よくしようと思ってるんです。そう言いなから私は、やわらかい物腰で、ベニチに座りテーブルの上でごはんを食べている高橋主に話しかけました。女子生徒が30人ぐらい。そして、「ほらあ、あすこにあんでしよう、赤いのがあさあ、ポストみたりのお、通信箱って言うてね、何でも書いていいんだあ、みんなあこの干潟をどう思う?」。ぼく、はずかしかったけれど、少しももったけど、彼女の目は真直に私を見ていた。

ふかんど

第47号

1981年
9月15日

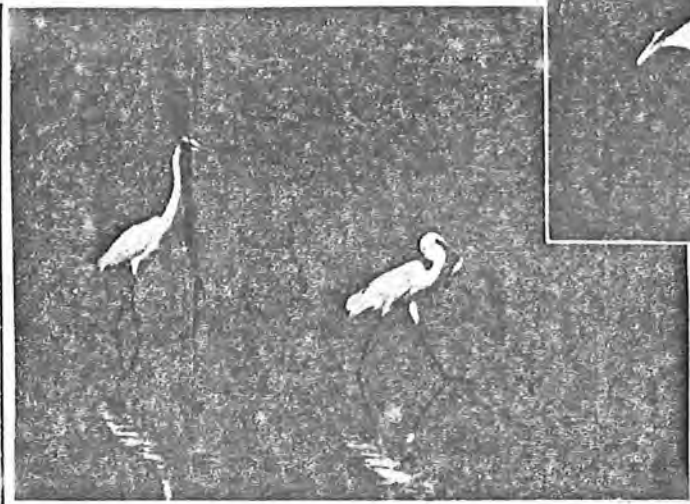
谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五番六
 電話 0476-1-6666
 文責 木村田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

へうみが、水がぬきだった私は、浮かぶものなら何でもぬきだつた。ヨシ葉の舟、丸太、イカダ...
 ヤー、貝カラでせよよかった頃

ダイサギ ヨーロッパ西部からアジア南東部にわたって分布する。わが国には冬鳥としてきわめてまれに渡来するにすぎない。



コアジサシ

カメラ スケッチ

◎野鳥の楽園

谷津干潟

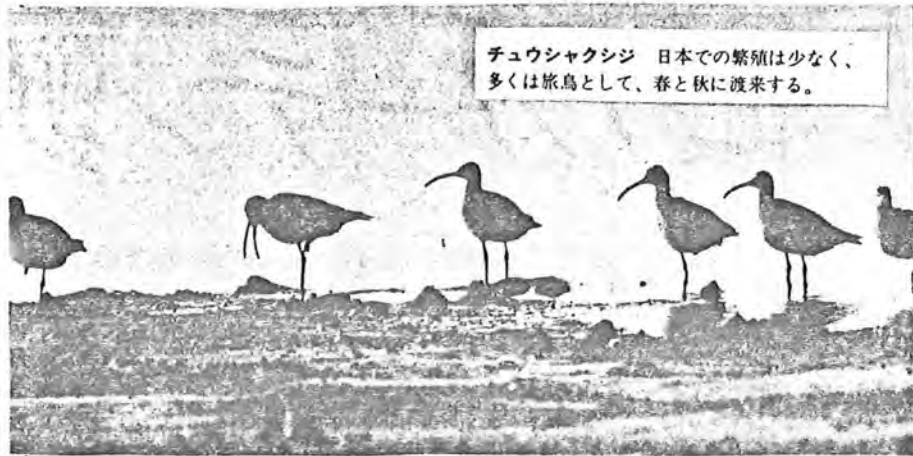
(撮影 五十嵐吉夫)

ウミネコ 鳴き声がネコのように「ニャオニャオ」と聞こえるのでウミネコと呼ばれている。漁師には縁起のいい鳥で禁鳥である。



{ 月刊・ならしの }

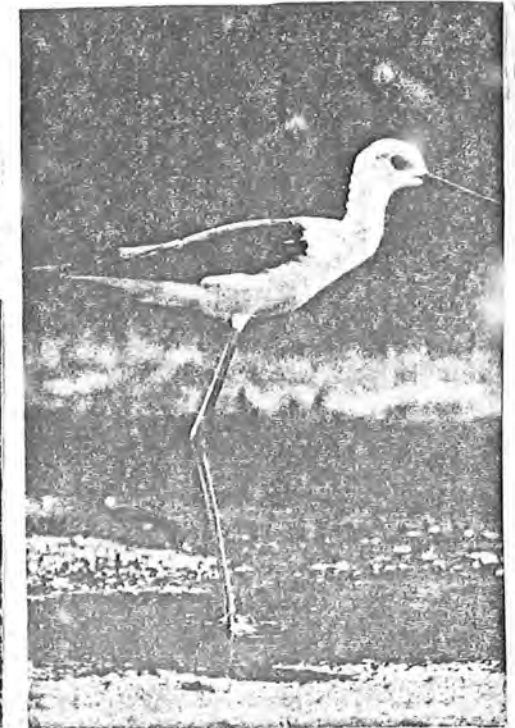
チュウシャクシジ 日本での繁殖は少なく、多くは旅鳥として、春と秋に渡来する。



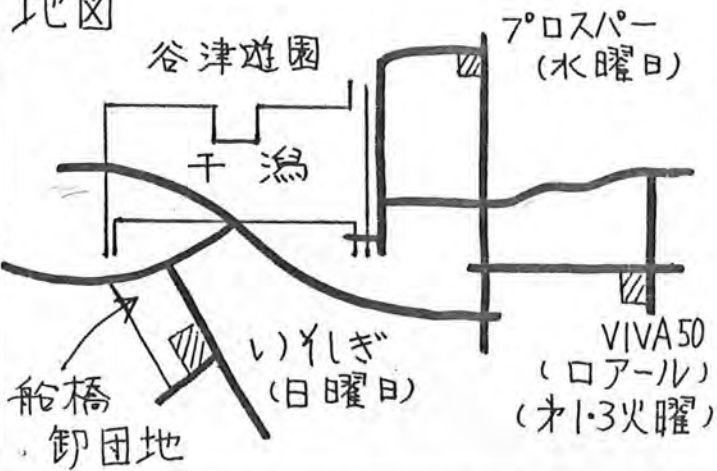
ヒバリ 埋立て地の草むらに卵を生み5月頃ひなにかえる。夏ドリ。



セイタカシギ とがった黒いくちばし、ピンクの長い足。地中海のそば、アラビア、インド、などに住む。日本ではたまにしか見られない珍鳥。



地図



知っておくと便利
— コーヒーと食事 —

私から見た
五十嵐氏と
谷津干潟

この人ほど、谷津干潟とその生物、特に渡り鳥を力メラに収めている人向を知らない。実にマメに、そしてよく撮っている、この一言につきる。

氏は、本当は、とっとと素晴らしい写真をたくさん持っているのである。「しまっである」のだ。

名実ともに、習志野市が全国に誇り得るにたる谷津干潟。私たちの力不足とあってだろうか、その実態も価値も、まだホンの少ししか理解できていないのだ。

・ 広告料は一切とらっていません。

ふかんど

第48号

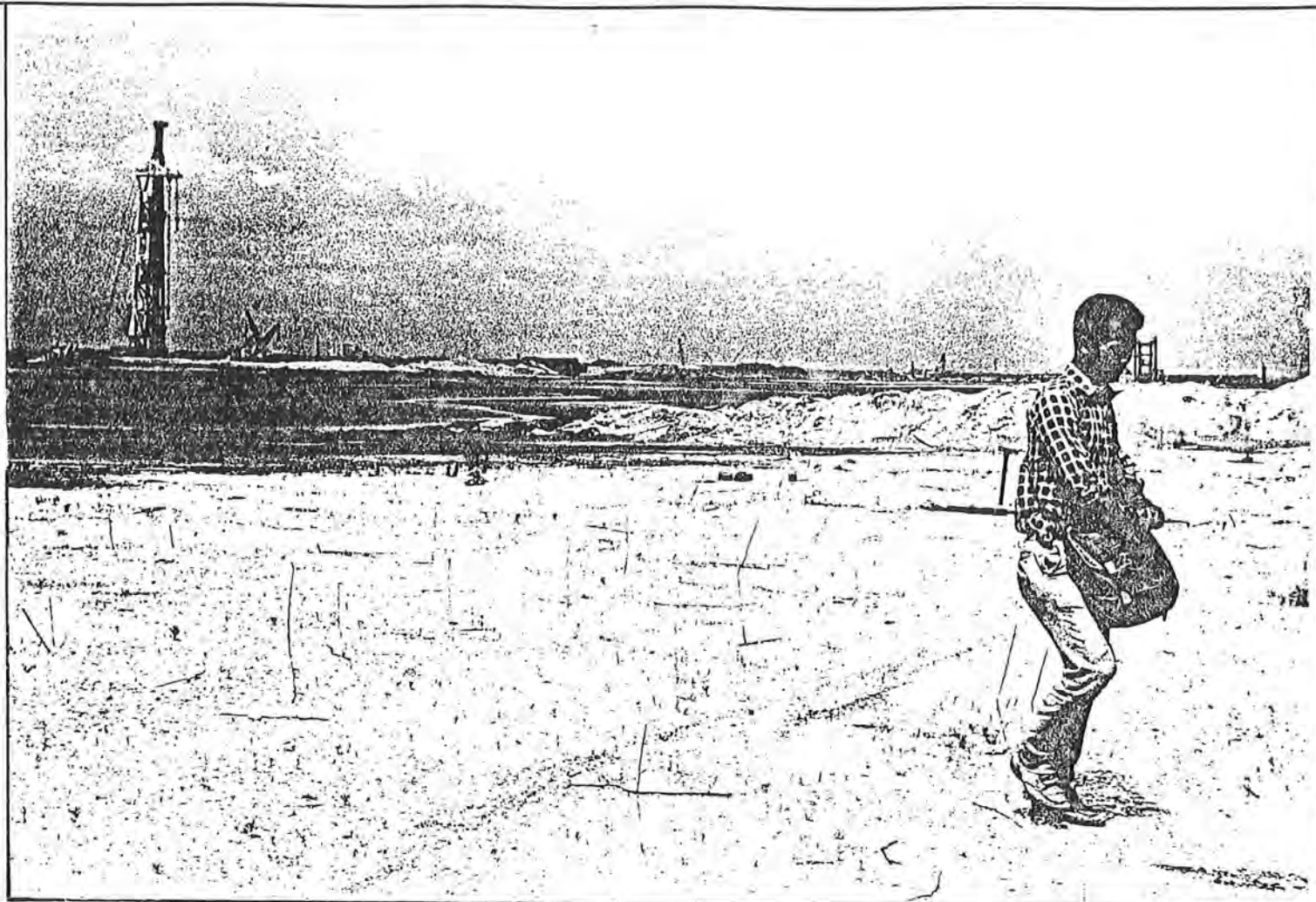
1981年
9月16日

谷津干潟愛護研究会
市川市本北方二丁目三五ノ六
電話 0476-11666八
〒272
文責 森田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

へふかんどー潮が引いた後、カニの穴に手をフツとせよ、大きなハセがつかめ、次々とヨシに刺さる



て、イホはくくとつまぶく
て暑いものです。

毎日、私はこんな所で、こんな
ふうにして歩いています。東京
の荒川の岸辺から、千葉市幕張の
花見川の岸辺まで、くる日も／＼
ただ歩き、イート菓をさがし
一ツ／＼チェックしていったので
す。カバンの中には、ノート・ペ
ン、印の為の小さな細い棒がたく
さん入れています。棒は、菓を
さがしてチェックした後、イの印
のために、私だけしかわからない
ように、一定方向・一定キヨリに
立っていきます。

どんな仄い所でも、決まって卵
を見落すことがないように、私が
とった方法は、すべての所を「短
かく」に歩いていく事でした。
少し離れると、卵と貝ガラは見
わけにくいです。しかー私は、イのちよこ
した遠りから見つけることができた。約四
ヶ月間、イホをくり返してきました。サンゲ
ラスも帽子も、いよまになるので使いませんで
した。

疲れます。日にやけ真黒になります。目がく
ぼんでくるのがわかります。一人で、全部自費
です。現在、彼らは全滅してしまいました。が、
この写真を見ると熱い力がこみ上げてきます。

白く見えるのは、みんな貝ガラと砂です
。埋め立て工事の為に、海底の砂と貝を大
きなポンプでくみ上げたからです。

コアジサシ・シロキドリ・コチドリは、
このいう所におゆん形のくぼ地を足で掘っ
て、イホに卵を産むのです。

写真は、全盛時の千葉港埋め立て地で、
私が調査している姿です。夏の太陽が強烈
に照りつけ、イの上、貝ガラと砂が反射し

※ 埋立地の渡り鳥に危機 ※

巣荒らし、卵の不法採取を、みんなで監視しよう!



コアジサシ <オーストラリアから来ます> シロチドリ <シベリアから来ます> セッカ

今、日本でも、自然の海岸はほとんどありません。これらの鳥たちは埋立地でヒナを育てるしかないのです。野鳥ですから、卵をとっても、人間では育てられません。そして、おいてやらないと、滅びてしまいます。監視員がまわって、調査監視をしていますが、鳥の巣をいたずらしている人を見たら、左記に通報して下さい。

(通報先)
千葉県自然保護課
千葉市 市場町一丁目
☎ 043-211-2158

私は、昭和50年ごろ、千葉港で、コアジサシ・シロチドリ・コチドリ繁殖調査をしている時、右の如きビラを配って歩きました。

埋め立て工事すべての関係者、ダンプヤブドーザーやパワーショベルの運転手などに、一人くわけを説明しながら、お願いを一つ一つ広げ埋立地をまわりました。

たった一人では、ごみほどのききめがあるのかわかりませんが、とにかくやって見たのです。しかし、ビラはあくまでの手段でしかありません。監視はつくれません。

調査を終えて、私は知りました。いちばんいけなかつたのは、バードウォッチャーという、つまり野鳥の会や、地元の自然保護団体の人であったことです。見に来る人ばかりで、守る人は殆んどいなかったのです。

< 車にひかれたバンのヒナ >



森田の前を走っていた車にひかれてしまいました。道路を横切ろうとしていた時、埋立地では毎年、多くの野鳥がこうして死んでいっています。

習志野の海岸です。昔のように、広い干潟や浅瀬があれば、決まってこういう運命にあうことなかつたでしょう。赤潮や青潮があると、彼らは谷津干潟へ逃げて来ます。

< 赤潮で力尽きた魚は... >



△小川に、ヨシの葉で作った船を浮かべ、それが菜の花畑や麦畑のそばを回り、野イチゴの畑の所を回り、田んぼから水内をくぐり抜け、干潟の川から沖へ流れたのを見つめていた。

ふかんど

号 49

1981.9.17

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二ノ三五ノ六
電話0476-1666八
支責 森田 三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

楽園の子供達

(川話)

ソーマンすくい

絵と文 森田三郎

ソーマンとは、ウナギの子供だ。きつと、その体がソーマンにそっくりなので、そんな名前がつけられたのだらう。
長さは10〜15cm位。色はネズミ色だった。沼や田んぼ、野原の間を流れて来た小川が、干潟に出てくるところ。その流れとは逆の方向に頭を向けて、ヒョコヒョコと泳いでいた。

ゆっくりしか前に進まない。後から後からやって来た。海の方からやって来た彼らは、小川をさかのぼって、フッカレ水門をくぐり抜け、湧き水や葎や、水草の所を通って、沼や田んぼに散ってゆく。

体つきも動きがたも、ほんとうにソーマンや、冷麦みたいだった。ぼくたちは、家からザルや手ぬぐいなどを持ち出して来て、泳いでいるソーマンをひっきりなしにすくいとった。両手をおわんのように入れて、水の中に入れば、その中へソーマンが入って来るのだ。手の水の中でビョコビョコ泳ぎまわる長さ5cm位のソーマン。それをジューツと見つけていた。



死んで白く固くなった沢山のソーマンたちを見て、ぼくは子供ころにも、何か、自分がいけないことをした人間、罪の思いをもったものでした。

ただ、つかまえるのが面白かった。とは言え、草むらにソーマンを捨てる時は、そんな自分に空しさや残酷さを感じた。母にもよく「三郎、お前、ムタな殺生するなよ」と言われた。

あの頃、昭和三十年頃、谷津干潟のまわりの小川には、なぜあんなにもソーマンたちがいたのだらう？ ソーマンは、海のどんなところで生れ、大きくなったのだらうか？ そして又なぜ、みんなして小川をさかのぼって来たのだらうか？ その時も、今もわからない。

ただ一つ、はっきりしていることは、埋め立てや開発と共に、いち早くその姿を消してしまったことである。海はよごされ、かつての小川は下水溝となってしまうた現在、あのソーマンの大群は、再び見たことはない。そして、「ソーマン」という名前も忘れられてしまった。

東京のセンター競馬場駅を下りて、14号道路を横切り、「ドラぼーと」の方へ向って行く

くと、京葉道路のガードがある。そのガードの右側の所、今は土の下になっていて、けれど、そこに「ぶっく水水内」があって、ソーマンすくいが行なわれていた。

x x x x x x x x

どう4年以上と前のことである。千葉市でとって、「オム回全国干潟シンポジウム」が行なわれた。全国各地から、海浜保護の運動をしていく人々が集った。それぞれ地域から、いろいろな報告がなされた。テーマの中

て会場に参加していた人達にどう受けとられ

ただどうか、ということであった。その時の私には、原稿やメモの用意もなく、どの様な順序でどんなスライドが出てくるのか、全くわからぬ、フツツ本番であった。

40分間、想い出しながら、ドモったリトキッたりして何とかなり終えた。

深い感銘を与えたのだ。会場にひびく拍手の大きさに私は、ただくばカリであった。

はにかみと小心でのんだ私は、こう思った。「さしかいたら、干潟ですごした想い出は無駄ではなかったのかと知れない」として。

チドリ科	ガンカモ科	サギ科	
ハジロコチドリ	コブハクチョウ	コイサギ	
コチドリ	オホハクチョウ	ハジフトゴイ	
イカルチドリ	コハクチョウ	ササゴイ	
シロチドリ	リュウキュウガモ	アカアシラサギ	
メダイチドリ	アカツクシガモ	アマサギ	
オオメダイチドリ	ツクシガモ	ダイサギ	31
オオチドリ	カムリツクシガモ	チュウサギ	12
コバシチドリ	オシドリ	コサギ	1
ムナヅク	マガモ	カラシラサギ	
ダイゼン	カルガモ	クロサギ	
ゲリ	コガモ	アオサギ	
タゲリ	ドモエガモ	ワシタカ科	
シギ科	ヨシガモ	ミサゴ	
キョウジョシギ	オカヨシガモ	トビ	
トウネン	ヒドリガモ	ハイイロチュウヒ	
ヒバリシギ	アメリカヒドリ	マダラチュウヒ	
オジロトウネン	オナガガモ	チュウヒ	
ヒメウズラシギ	シマアジ	ハヤブサ科	
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ	シロハヤブサ	
ウズラシギ	アカハシハジロ	ハヤブサ	
ハマシギ	ホシハジロ	チゴハヤブサ	
サルハマシギ	オオホシハジロ	コチュウゲンボウ	
コオバシギ	メジロガモ	チュウゲンボウ	
オバシギ	アカハジロ	フクロウ科	
ミユビシギ	キンクロハジロ	トラフスク	
ヘラシギ	スズガモ	コミミスク	
エリマキシギ	コケウタガモ	ヒバリ科	
コモンシギ	ケウタガモ	ヒバリ	
キリアイ	クロガモ	ハマヒバリ	
オオハシシギ	ピロードキンクロ	ツバメ科	
シベリアオオハシシギ	アラナキンクロ	ショウトウツバメ	
ツルシギ	シノリガモ	ツバメ	
アカアシシギ	コボリガモ	アトリ科	
コオアシシギ	ホシロガモ	アトリ	
アオアシシギ	ヒメハジロ	カワラヒワ	
オオキアシシギ	ミコアイサ	マヒワ	
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ	ヒヨドリ科	
クサシギ	カワアイサ	シロガシラ	
タカブシギ	カモメ科	ヒヨドリ	
メリケンキアシシギ	ユリカモメ	モズ科	
キアシシギ	セグロカモメ	チゴモズ	
イソシギ	オオセグロカモメ	モズ	
ソリハシシギ	ウシカモメ	セキレイ科	
オグロシギ	シロカモメ	セキレイ	
オオソリハシシギ	カモメ	ハクセキレイ	
ダイシャクシギ	ウミネコ	セグロセキレイ	
ホウロクシギ	ズグロカモメ	マミジロタヒバリ	
シロハラチュウシャクシギ	クビワカモメ	コマミジロタヒバリ	
チュウシャクシギ	ミツユビカモメ	ヨーロッパビズイ	
ハリモモチュウシャク	ソウゲカモメ	ビズイ	
コシャクシギ	ハジロクロハラアジサシ	セジロタヒバリ	
ヤマシギ	クロハラアジサシ	ムネアカタヒバリ	
アマミヤマシギ	ハシロクロハラアジサシ	タヒバリ	
タシギ	オニアジサシ	ホオジロ科	
ハリオシギ	オオアジサシ	シベリアジュリン	
チュウジシギ	ハシフトアジサシ	オオジュリン	
オオジシギ	アジサシ	ホオジロ	
アオシギ	ベニアジサシ	コジュリン	
コシギ	エリクロアジサシ	ヒタキ科	
セイタカシギ科	コシクロアジサシ	ヒタキ	
セイタカシギ	ナンヨウマミジロアジサシ	ジョウビタキ	
ソリハシセイタカシギ	マミジロアジサシ	ノビタキ	
ヒレアシギ科	セグロアジサシ	ウグイス	
ハイイロヒレアシギ	コアジサシ	コヨシキリ	
アカエリヒレアシギ	ハイイロアジサシ	オオヨシキリ	
ツバメチドリ科	クロアジサシ	ツグミ	
ツバメチドリ	ヒメクロアジサシ	セッカ	
タマシギ科	シロアジサシ	ムクドリ科	
タマシギ	クイナ科	ムクドリ	
ミヤコドリ科	クイナ	カラス科	
ミヤコドリ	オオクイナ	ハシボソガラス	
カイツブリ科	ヒメクイナ	ハシフトガラス	
カイツブリ	ヒクイナ	セウカシズ	
ハジロカイツブリ	シマクイナ	(埋立地)	
ミミカイツブリ	マミジロクイナ		
アカエリカイツブリ	シロハラクイナ		
カムリカイツブリ	パン		
ハタオリドリ科	ツルクイナ		
ニューナイスズメ	ホオバン		
スズメ			



自然、緑地の「コオロギ」
谷津干潟のそばの、自然
緑地の草ムラは、今、コオロ
ギたちの「天国」です。
夕日に赤く染った干潟に
、淋しげに鳴くシギ・チド
リの声。そして草地では、
コオロギの大合唱——。



テーブルとベンチが今
黙々とソイヤミ、北風の吹きす
さぶ中で、おじかんだ手を温める
から作った時、イの頃の私には、
こういう光景を思い浮かべる余裕
はありませんでした。ソイヤミは今
この高校生達。感無量です。これ
からは、彼らが「主役」なのだ。



流木が変身して
とく流木に、心や想い出が
あるのなら、どこからどこえ
と漂い流れてきたのか、ソイヤ
を私は囲きた。自然保護園
係の人達からさえ「ゴミ」と
言われていたけれど、言う人を
休めてくれるのは、ゴミなのに。

石川勉氏調査

ミヨリヨフバツタが
自然緑地の草ムラに
っぱいります。二種類
茶色と緑色のがいます。
虫カゴを持って子供産
が走りかけていた。



ヨシ野にも秋が来た
きれいですよ。波打ついの
風景は、秋のそのものです。
このヨシ野の穂が咲き乱れ
る頃、埋め立て地に赤トンボ
の大編隊が見られただのです。



セイタカアワダチの密林
さういさすと、一面黄色
の花を咲かせます。私は大好
きだ。子供の頃、この中を走
りまわって、とんだりはねた
りていた。セイタカアワダチ



グランドマ

金田武明

自分の自然に空からな
ジャック・ニクラウス
ゴルフほど不自然な動きはな
グーリー・プレーヤー(南)

自分の自然に空からな
ジャック・ニクラウス
ゴルフほど不自然な動きはな
グーリー・プレーヤー(南)

グーリー・プレーヤー(南)
二人の自分

二人の自分



二人の自分を知っているニクラウス

「勝つというものはBig deal
はないんだ」といって考え方が少
話題になっている。Big deal
は直訳すると「大きな商売」。別
の意味は、詳細なことでバタバ
タすること。つまり「勝つ」として
バタバタするな」という考え方
だ。あれは勝つことが好きな来
関人の、どこからそんな考え方が
出てきたのだろうか。
「昔話でいって、実はどう考
えながら勝つてしまおう」とい
うのが原意である。この考え方は人
間性の究明から出てきた。「自分
自身は二人いる」というのだ。一
人は外的自分、別の一人は内的自
分。外的自分がバタバタする原因
的自分が沈黙してしまっている
る」といっている。

「自分の自然(内的自分)に
ジャック・ニクラウス
ゴルフほど不自然な動きはな
グーリー・プレーヤー(南)

内的自分を大切に

この記事に書か
りようなことに
深い関心をそ
た。
谷津干潟に
ずつと以前、
以上も前か
して、これに
傾けたい自然
考えられな
日経 51.9.28

子供のころ、魚をとるなら魚の身に、虫をとるなら虫の身にあるいは貝の身にならうと考へ、

ふかんど

オ51号

1981年
9月20日

谷津干潟愛護研究会
市川市本北方二丁目三五番六
電話 四三三-一六一六六六八
文責 木林田三郎

2000年刊

創刊
1980.6.3

東武池袋線沿線の野鳥の楽園といわれる習志野市の谷津干潟は、五年前、同市のプロジェクト調査団によって「数年後には生物が棲めなくなり、干潟として残すのは困難」と宣告されたが、同干潟愛護研究会(代表 森田三郎さん)などの最近の調査でハゼ、イワシの子など魚類の数が増え、逆によみ

がえてきていることがわかった。同市ではこれを「開発のはざまの一時の現象」としているが、保護団体からは「顕著な率直に認め、再度調査して、貴重な自然財源として残していく方法を考えていくべきだ」との声が一着に高まってきた。

「棲めぬ」の「宣言」は誤り

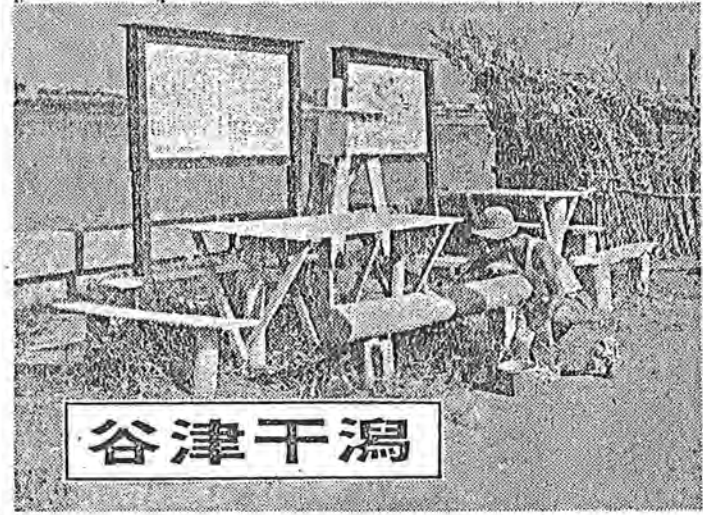
再び調べ直せ

保護団体が立ちあがる

ハゼ、鳥よみがえる

(毎日)

この干潟は、同市西部の谷津、遊園、公園住宅と隣接し、東京港を定めて立て地にはさまれた三十三万坪の地帯。同市は海岸道路を建設する以前の開発途上段階の四十九年、企画、公害課、東京港対策室に東邦大などの生物学者を加え五月にわたってこの干潟の調査と将来性について調査、その結果、同調査団は、同年九月末までに「近い将来、干潟としての機能は失われ、このまま残すことは困難。他の場所へ人工海浜をつく



谷津干潟

小室つくり訴え
同研究会では、近所の主婦、子供らの協力で、同干潟沿いに、観察用のベンチ、テーブル計二百十基、それに流木、カヤなどを使って、同干潟青少年の家と名づけた観察小屋を八棟建て、これを「保存の塔」として、国、県、市に対し、あくまで保存を訴えていくとしている。当時は、国、県ではほぼ合意ができたが、環境保護指定についての早期実現運動を、日本野鳥の会、同干潟を守る会などとともに、さらに強めていきたいという。

二つの記事

50.9.29

54.5.30

「谷津干潟を見て欲しい」
私が皆さんに言いたいこと
はこの一言に尽きます。
50年当時市は言った、「
この調査は中途段階にて打ち

切ったもの」と。そして又、「埋め立て計画の方針に沿って、それを前提とした調査である事は当然である。・・・」と。
行政に頼らず、ボランティアによる実践と考えたのは、その後であった。

野鳥の楽園に無情の宣告

「現状保存はムリ」

特別調査班が最終結論

東京湾で最後の「野鳥の楽園」といわれる習志野の谷津干潟について、同市ではさる四月に、大学関係者を集めた特別プロジェクトチームを編成、科学的分析から将来の問題まで多角的な検討を続けてきたが、このほど、「干潟を残すことは困難」という最終結論をまとめた。この干潟保存問題は、さる六月の同市定例市議会でも取り上げられ、「調査十分」という理由で継続審議となっていたが、今回の最終結論は干潟の消滅に大きく影響することは確実で、「千葉の干潟を守る会」など自然保護団体の反発は必至とみられている。

保護団体の反発必至

「谷津干潟の状況調査プロジェクトチーム」は、さる四月に発足、七月から具体的な現地調査を

「海水を浄化することは外洋を絡まふパイプを作ったとしても難しい」としている。汚染にもかかわらず鳥が数多く集まるのは、埋め立てで海岸線が離れた島たちに、他に羽を休める場所がないため、この干潟は、鳥が繁殖する生息地ではない。
結局、この調査では、干潟は「全体的方向として残すことは困難で、他に人工海浜が、あつたならば水利用を確保しなければならない」と結論している。
一方、この調査に対し、「守る会」の大浜会長は「科学的な公平な結果を期待したが……」と遺憾を表明している。
また、日本野鳥の会、松田道生さんは「抜却から撤去という結論があつて、調査したのではないかと疑いたくなる。この調査は、保存に全力をあげる以外ない」と、この調査に強い不満を述べている。

谷津干潟

(読売)



埋め立て地に珍鳥

千葉県蘇東の埋め立て地に、珍鳥のセイタカシギが一羽飛来しているのを、このほど、谷津干潟(習志野市)の保存運動を続けている森田三郎さん(習志野市川本北方二丁目)が撮影、写真撮影に成功した。写真。セイタカシギは主にソ連南部、地中海沿岸、アラビア、インド、インドシナ半島、中国大陸などの湿地に住み、日本にも時おり舞い込む「迷鳥」。細長いピンク色の脚とスマートな体がとても美しい。県内では、谷津干潟、蘇東、市川市の県庁跡鳥獣保護区などで五十二年から飛来が認められ、五十三年と五

十四年にはつがい、営巣してヒナを育てたことが観察されている。

今回、みつかったのは最近、成鳥になったばかりの若鳥とみられ、埋め立て地にできた水たまりで盛んにエサをあさっていた。このセイタカシギが以前にこの地区へやってきたものかどうか、わかっていない。今のところ一羽だけで、営巣の可能性は少ないとみられる。たとえ、

つがいだったとしても、蘇東地区は以前と比べてすっかり整地が進み、巣づくりは無理な状態で、森田さんは「来年はもう来ないのでは……」と嘆いている。

56年9月19日

(朝日新聞)



今年と来まーた

× × × × ×

この鳥ほど、自然保護団体やバードウォッチャーの「エゴ・欠負」な主張意識を見い出してくると鳥は少なくなりでしょう。

菅東地や主息地として必要な水たまりは、ここを除いて殆んど消えてしまっていました。来年はーー。

「中の島」と呼ぼう

× × × × ×

今までのように、あそことか、あんなんと言いつ方はやめて、何とか共通の名前をつけたいきたーの思いますが、皆さんは何かでーようか？

場所は、東側水路が干潟に出て来た少し左側の先です。

干潟で遊ぶ子供達

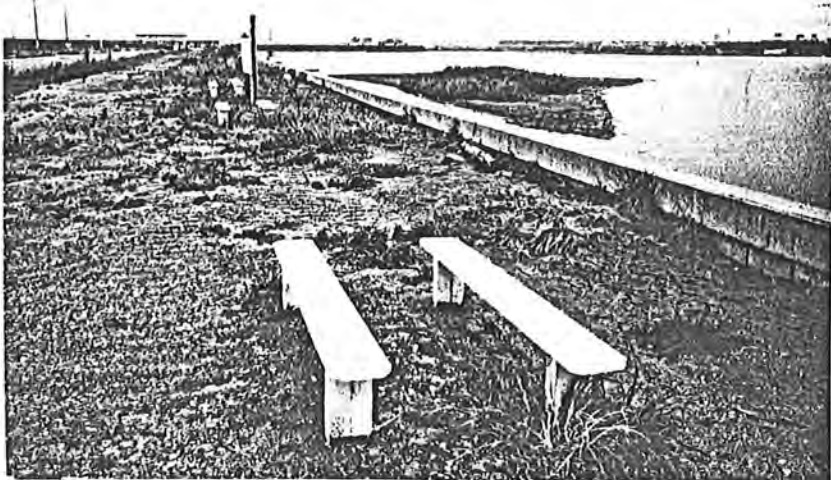
× × × × ×

時は夕方の上げ潮。最近、年を履って遊ぶ子供達が増えて来ました。ゴミも出ます。融氷合いを主張する自然保護団体が効かかった今まで、しかし、イホをカバーする人が少ないのです。

建設会社が代りに

× × × × ×

セナカシツカリした作りです。近くを工事した時、こわさ水たりのたんたりのたものですから、イの代りにと言って作っていたいただきました。全部で六つあります。



ふかんど... 浜に打ち寄せられた竹や流木を、どしき代りに使っていた頃...

ふかんど

号 52

1981.9.21

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五十六
 電話 0476-1-6666
 文責 木村 田三郎

2000年 読講

刊 創
 1980.6.3

オ35回

谷津干潟クリーン作戦

クリーン作戦は、9月15日(火)で35回目になった。その本場、勝負どころは、何と云って谷津3丁目の前である。

オ3火曜日は、近づくにすむ主婦によってなされてきた。とくにこの日は休日の為、主婦にとつては大変らしいのであった。

「ほんとうに男の人ってうのはうちいん中で何にもしないのねえ。ただゴロくしてるのよ。この前なんかねえ、オレ今日は自分でフトンして寝るから気を使うなよ、なんて言



ってさあ、帰ってきて見たらなによ、かけフトンした二つに折ってやん中はいい寝てんのよあ、んまあ「あーうちなんかねえ、お前今日は同窓会だろう、ちゃんとオレご飯作って食べてんかんあ、と言ったから安心して帰って来たのねえ。それなら、オレまだるあーんにも食べてゆえんだよ、なんて云ってるのよあーい」。

これが、悪臭放つゴミと汗と泥にまみれて清掃続けて来た主婦のワッソの会話。「自然保護の為」なんて立派な事は、言った事かない。

砂浜や干潟と主婦といっしょになって作りました。手前と右上が海岸の植物、左がフウの草なのです。

クリーン作戦で、汗とドロにまみれた日中でした。潮が満ちくる泳いッ夕方、人の去った後には、ほろ、目見草が...



右上の水たまりは、みんなガシヤベルと一輪車を使って、苦勞のすえに出来上がった手づくりのど。以前は鉄クズ・コンクリート・ガラスのゴミの山でした。



東京湾のシギとチドリ

東京都鳥獣保護員・日本野鳥の会 石川 勉

三〇年代に進む干潟の埋め立て

私たちになじみの深い東京湾は昔からシギ、チドリ類の重要な渡来地であった。

夏、シベリアで繁殖を終えたシギ、チドリ類は、渡りの途中日本を通過して、速く東南アジア、インド、オーストラリアまで飛んで冬を越し、また春になると北上する長い渡りを皆から行っている。

彼らにとって数千キロにも及ぶ長い渡りには膨大なエネルギーを使うため、途中で翼を休めて餌を捕る必要がある、南北に細長い日本列島は格好の中継地になっていた。

しかしここ二〇〜三〇年の間に日本の干潟は壊滅状態になってしまった。東京湾でも戦後の急速な経済成長と共に、昭和三〇年ごろから干潟

の埋め立てが始まり、大規模な石油コンビナートを始め工場、港湾、住宅等が海へ海へと進出したし、ほとんどの干潟は臨海工業地帯の下へ葬り去られてしまったのである。

これは東京湾に限らず伊勢湾、大阪湾、有明海等も同様で、日本全国のシギ、チドリ類の渡来地は急速に悪化しているとさえ言う。

私が中学生のころよく行った千葉県行徳の新浜には広大な干潟が広がっており、おびただしいシギやチドリにまじって今では珍しいマガンの群れやクロトキ、ヘラサギ等も見られ、後背湿地ではバンやオオバン等が繁殖し、あぜ道でイタチに出くわしたのを思い出す。

今では東西線が走り、干潟はすべて埋め立てられマンションが林立し、わずかに新浜水鳥保護区が昔のおもかげを残すだけである。

シギ、チドリが群れる谷津干潟

五年前前から毎週のように通っている千葉県習志野市地先にある谷津干潟は、昔の新浜にくらべスケールの大きさはかなわないが、年間を通じて多数の渡り鳥が飛来する。

今年で一〇回目を迎えた日本野鳥の会が行っている干潟に生息する鳥類の一斉カウントでは、全国二〇〇余ヶ所の中で常に上位五番以内に入る程個体数が多い。

三方を埋め立て地に一方を谷津遊園地に囲まれた正方形の残存干潟で、面積は五〇公、二本の水路を過ぎて海水の出入りがあるのみで中央から斜めに海岸道路が走り、決して自然の状態が良いわけではないが、多数のゴカイやカニ等の底生動物が生息しており、干潮時には全面が干潟となって露出するため、シギ、チドリ類にとって、絶好の渡来地になっている。

干潟を色どる四季の渡り鳥

暮になればメダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、オバンシギ、ア

オアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、チュウシキシギ等、多量のシギ、チドリ類が訪ずれば餌を充分取った後、繁殖地であるシベリアへ向かって飛び去って行く。

初夏、干潟につづく埋め立て地ではシロチドリやコアジサシが飛来し、数千羽ものコロニー(集団繁殖地)を作る。やがてヒナが巣立ち夏も終わりが近づくころになると、シベリアで繁殖を終えたシギ、チドリ類は、今年巣立った若鳥を連れて南の国へ帰るべく途中に日本へ立ち寄る。

秋の渡りは、種にわたっての繁殖と言う最大の目的を達した後であるため春の渡りとは違い、それぞれが落ち着いていて滞在期間も長いようだ。

一〇月も中旬を過ぎると、ほとんどのシギ、チドリ類は東南アジアへ向かって飛び去ってしまい、日本で越冬する二〇〇羽からのダイゼンと一〇〇〇羽以上のシロチドリそれに他種よりおそく飛来するハマシギが一五〇〇〜四〇〇〇羽もの大群をなし、それらに一〇〇〇羽ものカモ類が加わり冬の干潟は再びにぎわう。

また、これらの水鳥を狙ってチロウゲンボウ、ハヤブサ、ノスリ、チ

ドリのものがなしの鳴き声は、私には、もうこれ以上干潟を埋め立てるなど訴えているように聞こえる。

サンクチュアリを作る試み

欧米では、英国鳥類保護協会やオランダ野鳥協会の等が、サンクチュアリ(野鳥の聖域)を多数保有し活発に野鳥保護運動を行っており、干拓のさかんなオランダでさえ、埋め立て地の五〜一〇割は必ず野鳥保護物の保護区として使用している。

日本人には、自然を愛する気持ちがなくなくなってしまったのだろうか。決してそんなことはない。急速な経済成長に伴う環境破壊に多くの人は、自然をふり返る余裕をなくしただけなのであろう。

日本野鳥の会は全国九ヶ所に広い土地を買い上げ、サンクチュアリーを作ろうとしている。また、東京都では、現在、大井埋め立て地に野鳥公園を建設中である。ここでも、日本野鳥の会を始め民間の団体が公園の管理・運営に参加する計画がある。

今後、この公園を単に野鳥保護のためだけでなく、人と自然とのささいかなふれ合いの場所として行きたいと思う。

とって格好の採餌場となる。一年もすると埋め立て地の表面は乾き、広大な裸地が出来上がり、ほうほうに大きな水たまりが出現し、シギ、チドリ類やカモメ、カモ類の休息地になる。

シロチドリやコアジサシのコロニーも、一年目から二年目ごろまでの裸地のままの状態がピークで、二年目ごろには水たまりも淡水化し、防砂のためにまいた牧草の種子が芽を出し始め、ウラボシやカザヤヨシ等の植物が侵入した。

三年目ごろになると、裸地のはほとんどが草原化し、昆虫類やクモ類が多数発生し、ヒバリ、セッカ、オオヨシキリ等がいたる所で繁殖するようになる。水たまりは池のようになり、ムナグロ、タカブシギ、ヒバリシギ、イソシギ等、淡水を好む種類しか見られなくなる。水辺ではカルガモ、バン、タマシギ等が繁殖するようになり、裸地で繁殖していたシロチドリやコアジサシのコロニーは、消滅してしまふ。

やがて姿を消す渡り鳥

埋め立て完了後六〜八年もすると繁殖現場が出来始め、埋め立て地

この人の右に出る者はいない。文句なしのヤ一者者である。しかも、断然ズバ抜けている。この人なくして、谷津は語れなりのだ。

時とある。東京の浜町から、500ccのオートバイで高速道路を突走って来たのである。全ては、自費である。谷津干潟の渡り鳥に因りて

石川勉氏は、49年当時から、谷津干潟と京葉港埋め立て地の渡り鳥を調査している。週に一回、月曜日。二回以上来た

ハチようご今頃だ、榎に登り、榎は黄ばみ、すぐ頭の上でモズか鳴き、榎全体の梢には、無数の赤トンボがとまろ、羽根を休めていた。

ふがんど

オ53号

1981.9.22

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-1-1666八
文責 木村田三郎

講読年2000

創刊 1980.6.3

楽園の子供達

(12話)

広い干潟の見える大きな榎 絵と文 森田三郎



広い干潟の見える大きな榎
榎の葉の匂いをクンクンとかきながら、サルのようにスルスルと登って行く。そして、高い枝にチヨコンと座って私は、よく海を、広い干潟を見ていた。そこには、せい登って、海い、潮おー見てくんねえっ」と。裸足のまま、縁側から外へポーンとすっ飛び出て、榎まで走ってゆく。かつて知った榎のこと、幹に手と足の音をピタピタさせて、それは身軽な素早いものだった。

私の家の南側、海の方に向かって大きな榎が立っていた。まわりにも木が生い茂り、小さな森になっていた。その森は、大南と呼ばれる強い南風や台風から、うちの屋根を防いでくれるのであった。子供の頃、夜、枕もとで、ゴーツゴーツというものすごい風の音や、すさまじい木の葉のざわめきを聞きながら、「榎は今、オレンチを守ってくれているんだな……」と思いつつ、眠りに就いた。

広い干潟の見える榎は、その中であってひととき大きく、高くそびえ立っていたのである。森の最先端にあり、長い年月にわたる海かぜのため、北の方にソリ返っていた。

登れば海が見えた、ひろーいひろーい干潟が水平線とともに、一望のもとに見わたせる。海は、夏の日着してキラキラと光り、まぶしくてとまきれいだ。沖には白帆が小さくなっていつぱい浮んでいた。青くかすんでいる房総の山なみの上に、白く大きく、勇躍入道がムクムクとおおいか

ふさるように湧いていた。榎の葉の匂いをくすぐられ、葉と木の皮の匂いをクンクンとかきながら、サルのようにスルスルと登って行く。そして、高い枝にチヨコンと座って私は、よく海を、広い干潟を見ていた。そこには、せい登って、海い、潮おー見てくんねえっ」と。裸足のまま、縁側から外へポーンとすっ飛び出て、榎まで走ってゆく。かつて知った榎のこと、幹に手と足の音をピタピタさせて、それは身軽な素早いものだった。

高い榎の茂みの中から、身をのり出し、海を見た。ひろい、ほんとうにひろーい干潟を。そして今度は、家の方、下に向かって叫んだ。「かあちゃん……ん、うみいいいよお……、潮おー、ちゃんといいいよお……」と。何度も何度も、からだ全体から声をはり上げて叫んだ。私は得意だった。「オレが榎に登ることが、役に立っているんだ」と、そんな思いつきだった……。

何年か一度、私はこの榎を見に行く時がある。榎の上から見れば、眼下、すぐ足の下に、私の家の墓地があるからだ。つまり、墓参りに行った時である。

あの頃、私が盗人に榎に登っていた頃、その墓地は子供たちにとって、誠に恰好の昆虫採集の場であった。夏休みになろうとのなり、さしずめ「メッカ」である。イー、互いに経験と知識、いりあう「ウテ」を競いあう競争の場であり、史戦の場なのだ。

今、子分を連れ歩いて歩く親分が、いっぱいいるので、自分の位えている親分が、他の親分より下手クソ、獲物が少なければ、「なんだあ、○○ちゃんはスケクネエーナア、ー」なんて、見くびられ、離れていっぱい

さうから、子分としてって肩身がせまいのである。苦勞して仕えられているから、当然である。

とここで、よく、自然保護関係者から、今の社会にガキ大将がいらないから、ーなんて聞くけど、さーいたら、一番困るのはオレの当人だろう。オレの経験からすれば、

「かー又一方では、れっきとして、ガキ大将なるものが厳然と存在してワいた」「私達子供の社会」、「親分子分」からなる、「教習の場」で

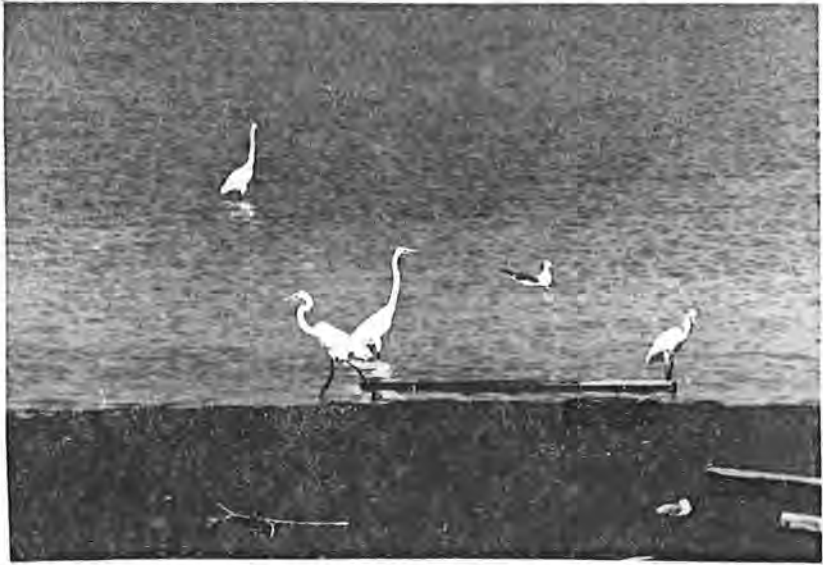
●「楽園の子供達」は、月刊・むらしの休刊となりましたので、これをとって最終回とさせていただきます。

〈 谷津干潟では... 〉



埋め立て地のキノコ
* * * * *
皆んなの足ととにありま
す。ベンチのある自然緑地
、イ草ムラの中に。白く
かすんでいるのは貝ガラ。
干潟の方からシギの音が。

埋め立て地のキノコ



オレはこっち君はせこう
* * * * *
空気の澄んだ、秋時の谷津干潟
。サギの白さがソライフさえて見
えます。ある時は並んで歩き、又
ある時はゆきかう。ヤンなのどか
な干潟の風景でしたー。

オレはこっち君はせこう



年ごとに緑を増す
* * * * *
湾岸道路沿いの遊歩道です。
もって木が繁茂して欲しい。
コニクリートの干潟の所にヨ
シ野が欲しい。谷津干潟を、
こんな緑でフフみたりなあ。

年ごとに緑を増す

生涯教育

『いい記事だ』 オレは、こういうのが大好きだ。
なまじ会合に出るよりも、この方がスカットするからさ。

生きざまを教えた父
私は父から、どんな風に生きま
といてを言葉でもって教えられた
ことは一度もなかった。

そんな風に育てば嫌だ。行くから
困るとか、女の子はもっと優しい
表現をしなければいけないという程度
の言葉をいわれたが、人生、これ面白い
な事に教えられたことはない。
しかし私は、親の膝下を離れてか
らの三十年の苦悶の歲月を思い出し
て、私の生きまは明らかに父から受
けたものであり、それを改めて思った
のである。

から劇団を作っても、そう始終、公演
が出来ればいい。また出来なくても容
に入らぬ。しかし客が入らなくても
私の母は、老齢さとしていけば機嫌が
よいという女であったから、父は貧乏
劇団を維持するために死に物狂いで任
事をした。劇団には収入がないから、
父の原稿料で十数人の団員を養ったの
である。

親が子に伝えるもの

作家 佐藤 愛子



父は団員のために家を三軒借りた。て来たときである。その時私は父の
團員たちは公演のない時はその家で花この時どの程度かと思える。一お
れをつたり、将棋をさして遊ばせ、父さんあの時の苦悶をさして遊ば
せ、父は明日の彼らの米代を心配し、
間も父は明日の彼らの米代を心配し、
次の公演先を探しその演し物や考え
その上になんか破産して来た家庭に返
金をするために必死で小説を書いた。
その時、父はペン一本でおおよそ四十人
の人間を養っていた。

父は団員のために家を三軒借りた。て来たときである。その時私は父の
團員たちは公演のない時はその家で花この時どの程度かと思える。一お
れをつたり、将棋をさして遊ばせ、父さんあの時の苦悶をさして遊ば
せ、父は明日の彼らの米代を心配し、
間も父は明日の彼らの米代を心配し、
次の公演先を探しその演し物や考え
その上になんか破産して来た家庭に返
金をするために必死で小説を書いた。
その時、父はペン一本でおおよそ四十人
の人間を養っていた。

父は団員のために家を三軒借りた。て来たときである。その時私は父の
團員たちは公演のない時はその家で花この時どの程度かと思える。一お
れをつたり、将棋をさして遊ばせ、父さんあの時の苦悶をさして遊ば
せ、父は明日の彼らの米代を心配し、
間も父は明日の彼らの米代を心配し、
次の公演先を探しその演し物や考え
その上になんか破産して来た家庭に返
金をするために必死で小説を書いた。
その時、父はペン一本でおおよそ四十人
の人間を養っていた。

父は団員のために家を三軒借りた。て来たときである。その時私は父の
團員たちは公演のない時はその家で花この時どの程度かと思える。一お
れをつたり、将棋をさして遊ばせ、父さんあの時の苦悶をさして遊ば
せ、父は明日の彼らの米代を心配し、
間も父は明日の彼らの米代を心配し、
次の公演先を探しその演し物や考え
その上になんか破産して来た家庭に返
金をするために必死で小説を書いた。
その時、父はペン一本でおおよそ四十人
の人間を養っていた。

父は団員のために家を三軒借りた。て来たときである。その時私は父の
團員たちは公演のない時はその家で花この時どの程度かと思える。一お
れをつたり、将棋をさして遊ばせ、父さんあの時の苦悶をさして遊ば
せ、父は明日の彼らの米代を心配し、
間も父は明日の彼らの米代を心配し、
次の公演先を探しその演し物や考え
その上になんか破産して来た家庭に返
金をするために必死で小説を書いた。
その時、父はペン一本でおおよそ四十人
の人間を養っていた。

かされてる男。今と違って厳しい、
モラルが人を縛っていた時代であるが
ら、父の苦悶は単に金の問題ばかりで
はなかったであろう。
おとろく人はみな願望するであろう。
父のこの時代の苦悶が、熱に燃
て私を何處、ふるい立たせてくれたか
しれない。
苦難を耐える力に
親の膝下を離れてから、私は彼れ多
い人生を歩いて来た。一番大きな波瀾
は夫が破産して借金の山が肩にかかっ

かされてる男。今と違って厳しい、
モラルが人を縛っていた時代であるが
ら、父の苦悶は単に金の問題ばかりで
はなかったであろう。
おとろく人はみな願望するであろう。
父のこの時代の苦悶が、熱に燃
て私を何處、ふるい立たせてくれたか
しれない。
苦難を耐える力に
親の膝下を離れてから、私は彼れ多
い人生を歩いて来た。一番大きな波瀾
は夫が破産して借金の山が肩にかかっ

かされてる男。今と違って厳しい、
モラルが人を縛っていた時代であるが
ら、父の苦悶は単に金の問題ばかりで
はなかったであろう。
おとろく人はみな願望するであろう。
父のこの時代の苦悶が、熱に燃
て私を何處、ふるい立たせてくれたか
しれない。
苦難を耐える力に
親の膝下を離れてから、私は彼れ多
い人生を歩いて来た。一番大きな波瀾
は夫が破産して借金の山が肩にかかっ

かされてる男。今と違って厳しい、
モラルが人を縛っていた時代であるが
ら、父の苦悶は単に金の問題ばかりで
はなかったであろう。
おとろく人はみな願望するであろう。
父のこの時代の苦悶が、熱に燃
て私を何處、ふるい立たせてくれたか
しれない。
苦難を耐える力に
親の膝下を離れてから、私は彼れ多
い人生を歩いて来た。一番大きな波瀾
は夫が破産して借金の山が肩にかかっ

かされてる男。今と違って厳しい、
モラルが人を縛っていた時代であるが
ら、父の苦悶は単に金の問題ばかりで
はなかったであろう。
おとろく人はみな願望するであろう。
父のこの時代の苦悶が、熱に燃
て私を何處、ふるい立たせてくれたか
しれない。
苦難を耐える力に
親の膝下を離れてから、私は彼れ多
い人生を歩いて来た。一番大きな波瀾
は夫が破産して借金の山が肩にかかっ

ふかんど

号54号

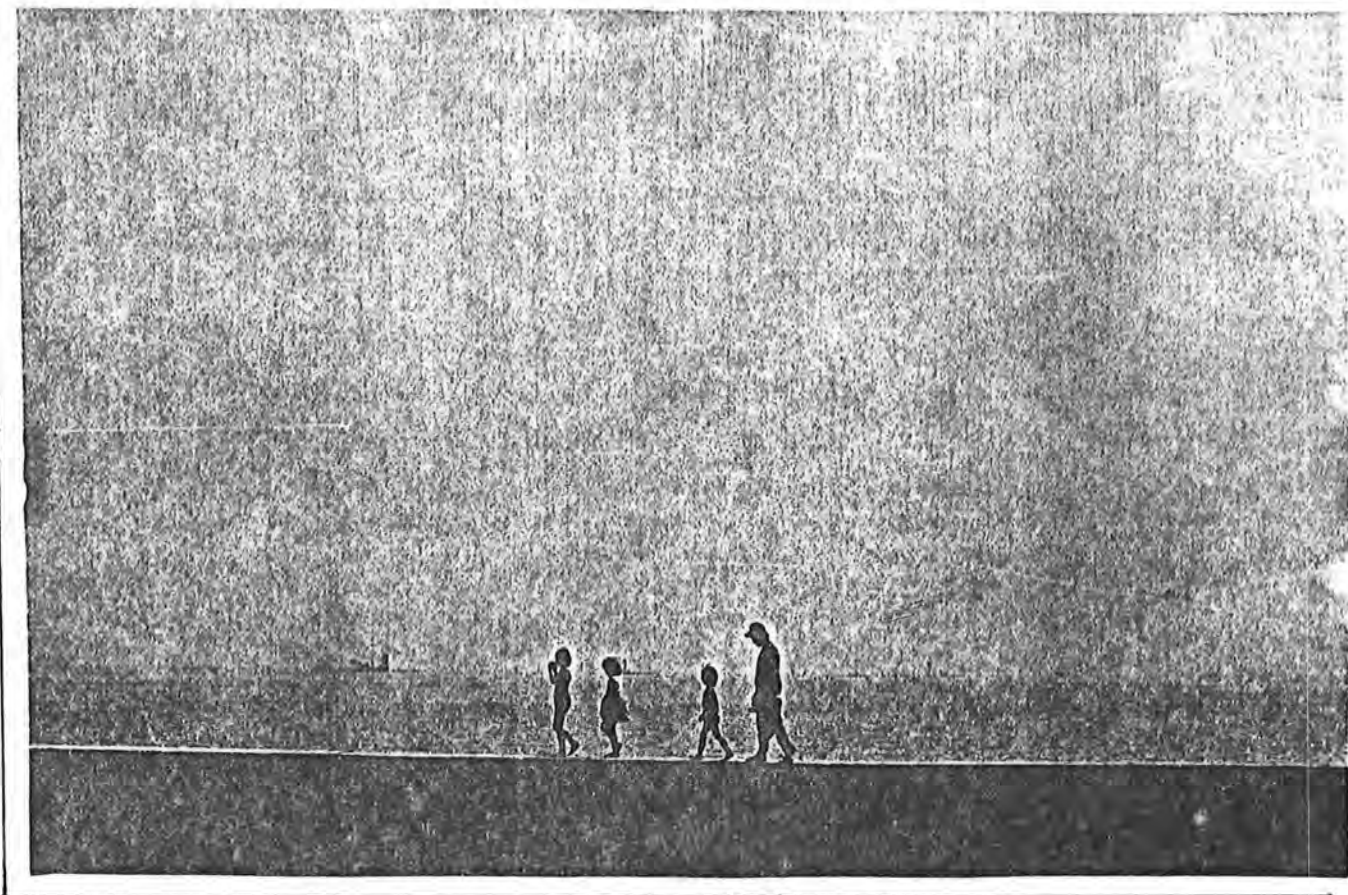
1981.9.23

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-31-1666
文責 本林 田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

へ潮風にそよぐヨシ野、タックルと波の音、夕焼けの土手道を、越へくたかめたすき腹の子供達
は帰ってゆくのでした。✓



この写真、津田重男さんから頂いた。3年前の、53年10月頃だった。いいと思ってる。私はこの写真が大好きである。落ちついた、清楚な感じを予えてくれるからだ。何故か、「惑る懐かしさ」がこみ上げて来るのだ。

簡素にして素朴なそれは、あったかくて、「お前はいつまで迷い歩くのか。どう止めろ、どう十分だ。それ以上自分で自分をこまかい、さいなものを止めよ。お前が

心労し、悩ませたその、それがいつたの何だったとでもいうのか？ それか、今ここに介有る？ 全つ流れ去り、潰れ去ってしまっただけではないか。い。思い視よ、それが値いするその、何かひとつでもあったか？ 年月か、いかにそれを流し流し、空しいものにいつしまったかを、お前は見ていたではないか、知ったではないか。

お前にとつて、本当に大事なものの、必要なものは、ととくお前の中に在って、外なるすべてにいかたることがあろうと、それが、増えとーなれば、又減りどーなかつたではないか。 そんな時に、忠実にお前についつて来たではないか。黙って静かに、一言の弁明や言の誤りやせがは。それがお前に希望することとは、たつた一つでいかなりのだ。それ

それは、他の何かに相談することもなく出来

るものだ。その希望とは、「お前以外のものにならうとするな、それだけだ。お前以上の人間にも、以下の人間にもなるな」という、お前いかんでは出来ることなのだ」と、そう言うてくるようだ。

写真の場所はおそらく、磯辺か柏毛の海岸の堤防の上だろう。今度会ったら聞いつみよう。夏の夕日と沖の水平線、それの子供。日頃忘れかけていたものを憶い出させてくれたのだ。

海辺の声

第22号
50・10

環境を
守る会

楽しかったネ、生きた教科書

干潟観察会に 幼児教室が参加

十月十日(体育の日)は日本晴れ。

海辺に生まれて、海を知らない子供たち。

リュックサックを背負って、長ぐつはいて

片道一時間半余の道のりを、元気に歩きました。

一人の落ちこぼれもなく。

キラキラ光る海を見た子は叫びました。

「先生、どうしてこんなきれいな海を埋めるの？」

埋立地の草原でバツタの生態を、

干潟では、望遠鏡で水鳥の生態を

野鳥の会のお兄さんたちに説明してもらい

黒い瞳は一段と輝きました。

お兄さん「どんな鳥がいたかな？」

子供たち「小サギ」「白子ドリ」「ウミネコ」

次々次々と鳥の名まえが出て来ます。

今まで、一度も口にしたことのない名まえが、

「かにもいたよ。」「バツタも。」

長ぐつをはいた子供たちは、

楽しかったと思っ出を体中につめこんで、

元気に帰って行きました。

先生「出発から帰り着くまでの間に、子供たちに

素晴らしい教材がいっぱいありました。」

こんな生きた教科書が袖ヶ浦にもあったのです。

「せめて谷津干潟だけでも、残しておいてやらな

いと。」

彼らへの責任を感じました。

連絡
74・8032
74・8126
74・8152
73・5381
74・7237
74・6540

環境を守る会は、袖ヶ浦団地の主婦が
作り出したグループです。

野鳥の嘆き

グリーンフェスティバルの巣箱作り

「ぼくたち巣箱作ってもらわなくても、自分たちでもう作っちゃったんだけど……」

「だから、私たちの作った巣を

ブルドーザーで壊わさないで

ほしいのよ。」

こんな野鳥のさえ

ずりが聞こえたとか。

これは、心から鳥を愛する

青年が、あの広い海の埋立地を

歩いて鳥の巣を教えている中に

耳にした嘆きのさえずりたそうです。

袖ヶ浦の前の埋立地に野鳥の巣が

千何百個もあるそうです。

野鳥の巣箱作りは微笑ましいことですが、しかし、

野鳥自らの手で作った埋立地の巣をブルドーザー

で踏みつぶす計画には罪悪を感じないのでしょ

か。

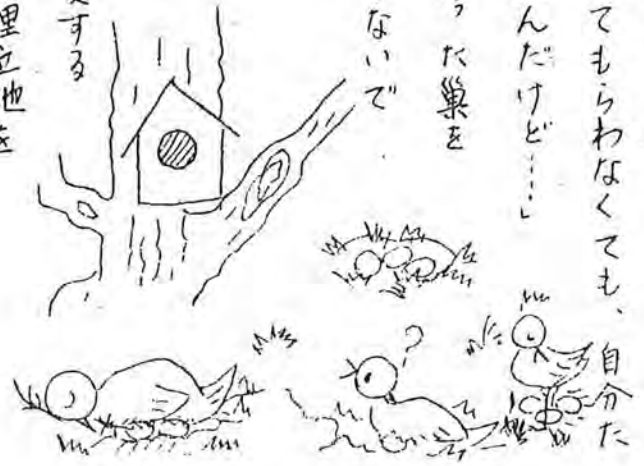
内陸に巣箱・埋立地に高速道路ということは、

習志野の自然を人の手で塗りつぶしてしまおうこと

になりませんか。

子供から自主性を奪ってしまった教育までの姿

と市政がタフって臉から離れません。



ハハゼの大群が、海老川の京成線路のほうまで出てくるのが土手の上からわかり、川底が

ふかんど

オ55号

1981.9.24

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
 電話 0476-31-1666
 支責 木村 田三郎

講読年 2000

創刊
 1980.6.3

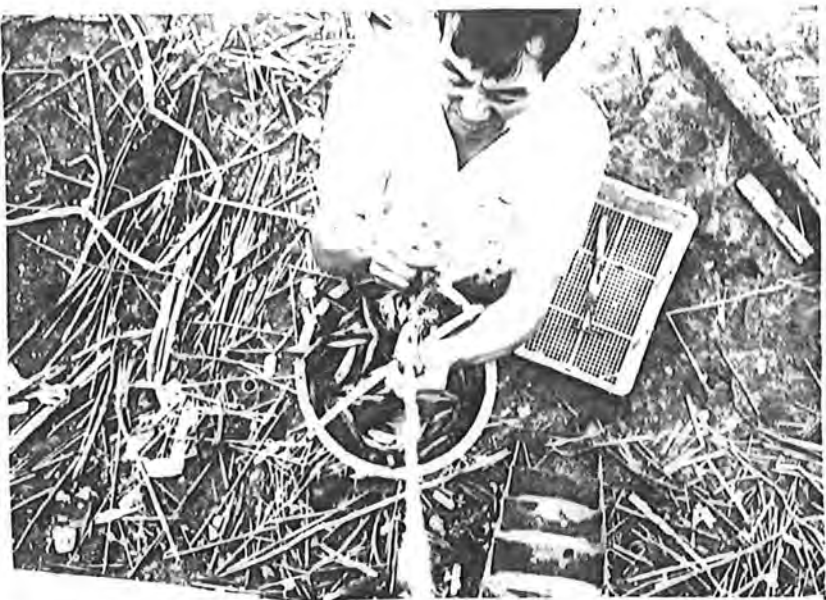


〈ある日の谷津干潟〉

① 干潟の中の罾にアミを張り、その水を上げました。バケツの隣がもう一つです。袋の中はハゼでギツクリ。
 「あー、重たえなあー、ヨォーイシヨ、さあゆわえたやあー、上げろあー」
 (森田が引っぱった)

② アミは、三つ。こ水が一回分です。こ水でと少な方です。近くの人々が散歩や釣りに来ていて、黒山の人だかりだった。
 「わあー、と、ごよめきの声。大部分は、秋津・香澄の産なのです。自分産の住むすぐ近くにはこんな所があったとは。」

③ 「オレはいろいろえんだ、オーイツ、今あにあげるかだなあ、皆さん好きだけ持っていきなさいよあー」
 皆んなの見ている前、わずか15分足らずで、写真の約4倍のハゼ。乳母車の主婦まで、好きだけ持っていった。



この原稿は、3年前である。私が平日頃、谷津干潟で体験したことを、見たまま感じたまま書いたものである。

谷津干潟

谷津干潟愛護研究会

森田三郎

◎ 今の谷津干潟

もとは、面積が50haあった。現在、東京湾岸道路が、西から南へとナナメに通っている。そのため、干潟は12haと33haの二つに分れた。来年度、国設鳥獣保護区・特別地域に指定される計画の所は33haの所である。残りの12haは、道路・鉄道・工場になる予定。

北側は谷津遊園に、西・南・東は埋立地にかこまれている。干潟内の潮の干満は、外海へ通ずる二本の水路を海水が出入りしてなされている。

◎ 昔の谷津干潟(昭和26年頃)

トビウオがとび海ガメも来た。マッチ箱くらいのカメが、浅瀬のヨシの中、つまっている海草の中からとれた。イワシの群でその所は黒くなった。ニギリコブシほどのハマグリ・カレイ・ハゼ・渡りガニ・シャコなどが手づかみでとれた。潮が引くと、干潟が沖の方へ4kmくらい出た。遠い沖から、オンジョ(ギンヤンマ)・ドロポー(オニヤンマ)が、夏の風のない日に次々と飛んで来た。

一方、土手みちを境にした後背地には、沼・野原・小川・田んぼ・麦畑や菜の花畑があった。野原には、ツクシ・タンポポ・レンゲ・スミレソウが咲き、沼には風車、小川には水車がまわっていた。野ウサギがはね、ヒバリがさえずり、夏の夜はホタルがとびかっした。

所々に湧き水もあり、カワセミもいた。メダカ・フナ・ドジョウ・タニシ・ナマズがたくさんいた。夕焼けの中、赤銅色の子供達は

菜の畑の上の黄色い大きな月を見ながら、サクサクとする砂道を帰ってゆくのでした。

現在、そこは団地や道路で、すべてが消滅した。

◎ 干潟の情況

埋立工事の時海底のドロが大量に流入して貝類はほとんど全滅した。しかしその後、水路の整備によって海水の出入りが良くなり、干潟の環境は毎年よくなってきている。

アサリ・シオフキ・マテガイ・バカガイ・トリガイ・カキ・ムラサキガイなどがふえてきた。ボラ・セイゴが潮と共に入って来て、干潟一面を泳ぎまわっている。投網・ハゼつり・貝を取る人が出て来た。貝を掘る商売人もいる。浅い所ではハゼが手づかみでもとれる。夏から秋にかけては、水辺に立つと、魚の群が泳ぐ時たてる音がいたる所でバシャバシャと聞こえる。

谷津干潟は、表面の泥が少しづつ潮の流れでけずられており、砂質の所が増えつつある。シャコの仲間、スナモグリが急に増え、トビハゼも多くなった。

特に、沖に赤潮や青潮が発生した時、魚たちは水路をつたって谷津干潟の中に逃げ込んできた。

春には、セイゴやイナ・イワシの稚魚が浅瀬で群を成し、両手に山盛りいっぱいすくえた。

十月頃には、30cmくらいの魚が群をなし、ごく浅い所では頭や背中が出てしまっている。モリとか弓矢、石を投げれば当たるだろう。ミ

x オのふちで15羽ほどのサギが、群なす魚をいっせいにつるべ打ちにつかまえて食べているさまは見事であった。自然観察会の時、子供たちに弓矢の作り方やモリの突き方を教え、種目別に魚とりの大会をやらせたいと思っている。

◎ カニのこと

x ヤマトオサガニがおびただしく群生している。干潟の面積の6~7割の所は、ヤマトオサガニだらけである。ちょうど、ご飯の上にゴマをかけたようだ。温かい日に、いっせいに甲ら干している眺めは壮観である。

x 周辺のヨシ野・流木の影には、アシハラガニ・イソガニなどがいて、毎年増えてきている。砂質の所が増えてきているため、チゴガニ・コメツキガニもますます多くなっている。数年前には見られなかったコブシガニも出て来た。また、イソギンチャクも四種類ほど生息するようになった。特に干潟周辺のヨシ野の中の潮溜り、流木のかげは、ハゼの稚魚やカニの子供(1~3mm)の絶好な生活場所となっている。全体の方向としては、砂質性のカニが徐々に増えている。

◎ ゴカイのこと

x 干潟全体がゴカイだらけである。私はスコップ一回で五十数匹、手で十四以上とったことがある。ゴカイ職人も来ているほどだ。

x これら無数のゴカイ、およびカニは、渡り鳥にとって豊富にして貴重なエサとなっている。

◎ 渡り鳥のこと

x 現在まで百五十種ほどの鳥類が確認されている。数は秋から冬・春が多い。常時二千から八千羽来ている。時には一万をこすことがある。干潟の鳥の特徴である。シギ・チドリ類が大部分を占めている。数・種ともにそう

である。シギ・チドリ類においては、毎年の調査で常に五位以内に入っている。全国一の時もあり、日本全体の八分の一が集った時もある。

干潟は全国的に埋立工事によって次々と消滅している中、この谷津干潟は渡り鳥にとってはかけがえのないものであることを、渡り鳥自身切実に証明している。干潟のヨシ野では、クイナ・オオヨシキリ・バンが繁殖している。

谷津干潟近くの埋立地は、渡り鳥の恰好な生息地・繁殖地となっている。ヒバリ・セツカ・オオヨシキリ・バン・クイナ・カルガモなどである。

1976年の調査では、コアシサシ・シロチドリ・コチドリの巢の数が五千ちかく確認された。巨大なコロニーがあったのである。1978年6月、セイタカシギという鳥が繁殖した。日本で二番目という特記すべきことであった。また、埋立地は干潟が満ち潮で没する時、シギ・チドリ類が避難する所でもある。

しかし、この埋立地、草原・コロニー・ヨシ野・水たまりも、やがては一つ残らず文字どおり全滅するものである。道路・工場・倉庫・埠頭・団地によって、

東京湾奥部にポツンととり残された谷津干潟。全国で、二位を争う渡り鳥の渡来地。

往時の面影はなくも、今なお四季を通じて出入りする数千の渡り鳥を、しっかりとそのフトコロに抱きかかえている。そして、ゆっくりと立ち直りつつある。夕日をうけて、干潟の上空をとび舞う数千羽のシギ・チドリ。その姿はきれいで悲しい物語の、谷津干潟のコトバナなのです。

△観察とか調査、あついは何々としてとか、よう考えを一切持たず、Yの価値を向うがう

ふかんど

第56号

1981.9.26

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五番六
 電話 0476-111666
 文責 木村 田三郎

2000年読講

創刊
1980.6.3

(一九七八・十一月六日 朝日)



谷津干潟の緑地残そう

市川市 町田 肇平 (自筆 30歳)

セイタカシギで知られる干潟、谷津干潟の緑地の造成工事が進められ、毎日、シロベルカーやダンプカーが走り回っています。夏にあつた、セッカの巣は、もうありません。来年の夏は、むき出しの地をあらわした造成地となっているでしょう。

今は、何もわからない子供が数人、シャコをとったり、砂をいじくって遊んでいます。残された草地に入ると、繁殖地が踏み荒らされたりしています。

このように、市民の憩いの場になつていく干潟周辺の緑地帯は、干潟の保存にも必要ではないでしょうか。関係当局は、造成工事を中止し、緑地帯の保存も考えてほしいものです。

谷津干潟のそばにある、約3.1haの草はら。

上の新聞記事は、Yの為に社会に呼がかけた唯一人の、唯一つの声である。Yは、ひとだけに、私にと残されたのである。

不思議なことには、地元

自然保護団体、野鳥の会や干潟を守る会、は、全くと言つてよい程、何となくかつたのである。記事の主旨は、どこもこの会員でもなく、又、自然保護団体にはいろいろな関係のない、町のパン屋なのである。ヤコブ私ども、事実上右の団体から除外された。

谷津干潟に緑地が

欲しかった

Yの為に作つた看板である。分厚いベキヤ板千枚でできています。

5年の冬に立つた。9月に退院した私は、まだ、ヤプスせばめ、松葉杖をついていた。家で書き、トラックにフンで運んで来たのだ。勿論私が運んで来た。杖は荷台にはあり込んでおき、ヤプスの足で、クラッシュを切ったのだから、思

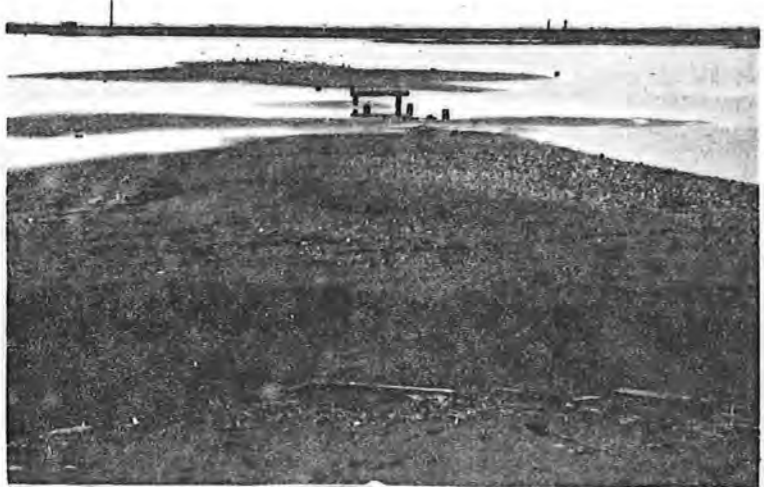
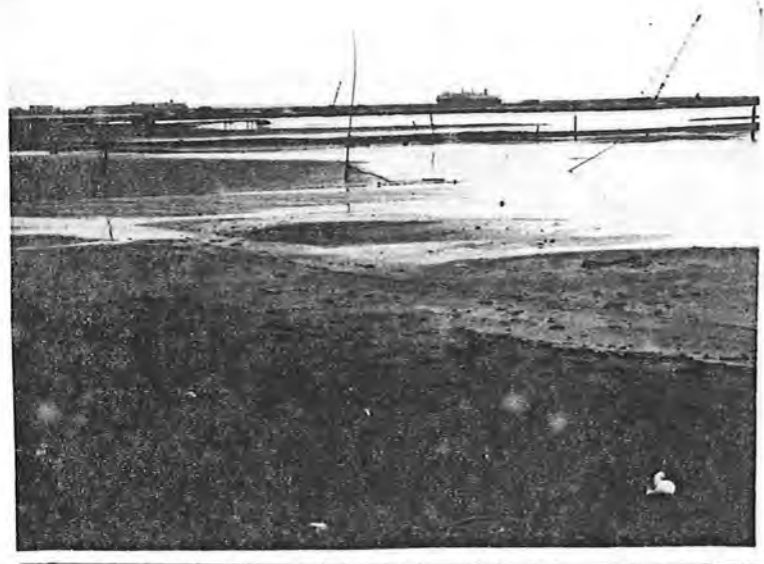
きつた事だつたと今にー思う。車から、立つた場所まで、50mくらいの距離があった。何となく、殆んどビッコなので、骨折っていたら足の足に力を入れた、大汗をかいて引きずって来た。又、引きずる時は、柱などをロープでゆわえ、他ののはしを、私の体、肩や腰にゆわえた。Y、松葉杖をつく手足にグッと力を入れた、体を前のめりにして、一歩一歩引きずって来た。他の20本ほどの看板を立てる時にも、Yはよく同じようにして運んで、立つていたのである。何とかして、草地や水たまりが欲しかったからである。

養浜造成(その1)工事

工期 自昭和56年1月28日 至昭和57年1月22日

発注者名 千葉県企業庁(京葉建設事務所)

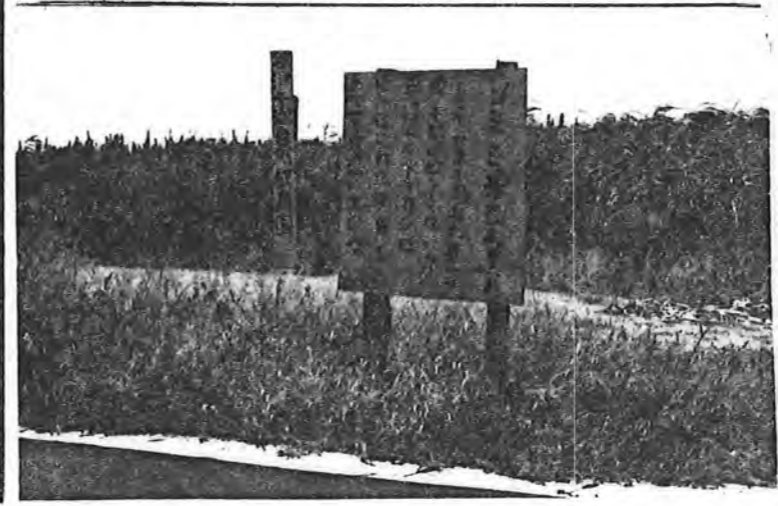
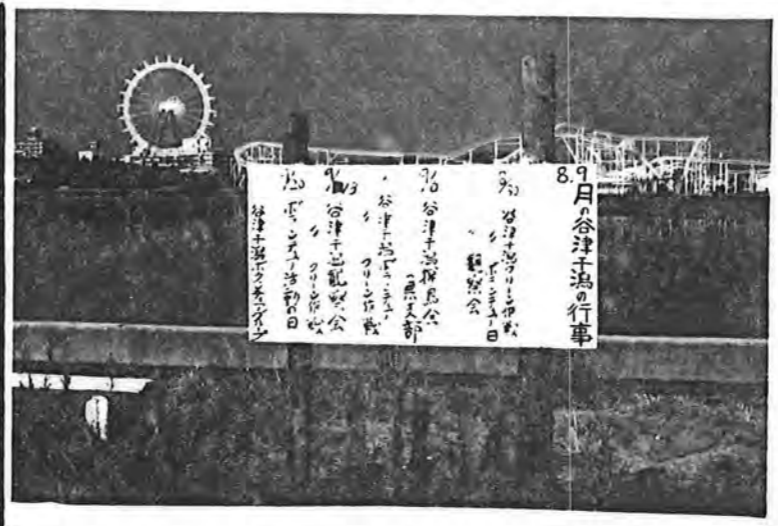
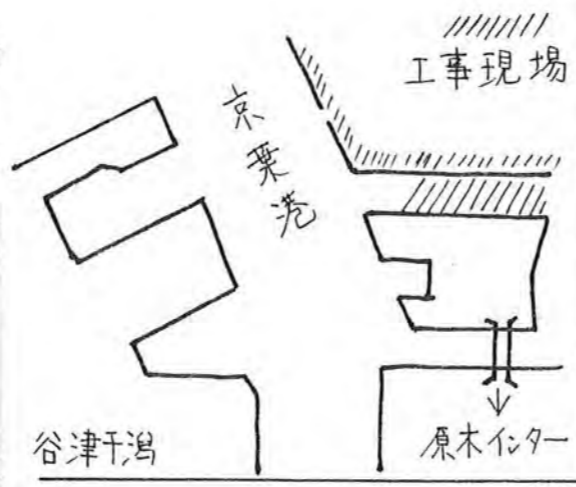
施工者名 三井不動産建設株式会社



潮干狩場が
作られています
x x x x
場所は、京葉港・中央埠頭
です。現在、船橋市営の人工
潮干狩場のある所です。
船橋市と市川市にまたがる

この辺一帯は、湾奥に残さ小
た唯一の浅瀬。季節になると
のりいびが立ちあがる。又
、今でどアサリが豊富です。
渡り鳥が数千羽単位で来て
います。関心のある人は是非
行く事をおすすめします。

地図



まあ、とにかく増えた、増えまくった。谷
津干潟にくる人が多ワのです。
鳥を見にくる人よりも、いわゆる人の方が、ずっ
と多くワのです。
すっ裸になつて、干潟全体を見わたるから
体に水をかぶり、肌を風にさらさらながら草原を
歩く、今はそんなこと出来ないのである。

へ私を小さな頃、遊ばせてくれた。夕飯時、目をあげておれず、首をコックリくくさせながら口をモグく。

ふかんど

号57

1981.9.27

谷津千鴻愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 043-1-6666
文責 森田三郎

2000年読講

刊 創
1980.6.3

たくさんの写真などのおかげで、自由研究も提出できました。読書感想文も二羽のことを書いて学校代表の出品になりました。本当にありがとうございます。二十七日に運動会があるので練習のため、一日四時帰ります。家に帰ったら、ついでにすぐおてしまいます。運動会がすんだら、また干潟に行こうと思います。

* 市川市真岡小学校の6年生です。
* 夏休みに、谷津千鴻の生物観察をしたいと言っ
* て、お母さんといっしょに干潟まで来て、そこで初めて会いました。二人共、観察会の撤去をとても残念がっていました。

『そう、よかったねえ、うれしいじゃないか』

こういう手紙ほど、私を励ますものはないのである。「へえ、そう、そうなのよ、うらあよかったあ、ふーん、うしろゆゑいしてな具合にである。まろやかなコーヒーを、ゆっくりと重七にすすり、クッションのきつたソファに深くきたれ、その想いげに眼差しを少し上に向けて。ひと時の、さ、やかにして、貴重なる、何どのに代え難い一刹那である。私にとっては、自我拡大の、誠に少ない機会のその一つなのです。皆さん、あながち、私が、オッコッコイイとは思えないのです。自然保護にフイフイは、全くの無学文盲、無知蒙昧の森田が、干潟のことで、話したことやっ

アリのことが、育った環境や世代のちがう千祥子ちゃんのような人に、たとえホンのわずかに、うったえ、と心の琴線に触れたのかと知らぬりのなり、本当にうれい、何かせくわしたような気がするからです。千祥子ちゃん、どうも有難う。私は、こんなうれいことが一つあれば、その十倍以上の失望や困難、そして障害をのりきっていけるのです。年がはなれ、違った境遇やまじ立ちの人であればあるほど、うれしく思えます。千祥子ちゃんの千紙のおかげで、とかく沈み勝ちだった心の黒い霧がとリ除かれ、疲れた心まじやされ、安らぎと支えを見出すことができました。谷津千鴻は、奥に、千祥子ちゃんたちの為に有るのです。森田はただ、精力の泉の原泉は消え去ったのにあつても、それを表わし、めざす目的と方向は、現在と将来の為であるのです。

家庭

教育

テレビと親子の会話

全体では毎日三時間以上見ているのは子どもの三人一人

大人では四人に一人、夕食時

は八〇・九％がテレビを見なが

ら「一家だんらん」。当然親子

の話し合う時間は少なくなり

「二日二十分以上の会話」を親

子で交わすのは週に二回ちょっ

とだけ。また、二人に一人が週

三回は学習塾に行っているか

ら、平均的な生活を考えると、

午後四時帰宅、朝六時半起床

、テレビ食事、勉強となり、

なるほど話し合う時間はない。

AグループとBグループにつ

いて学習成績とテレビの視聴時

間の関係を調べると、興味深い

対応がみられる。Aの男子の平

均は二・八時間、女子二・六時

間なのに、Bの男子は三・七時

間、女子三・三時間。AとBの

差は男女それぞれ約一時間あ

り、成績の伸び悩んでいる子の

ほうがテレビ好きといえそう。

特に三時間以上のテレビを

見た度合いがきわ立った対照

伸びない子 テレビばかり見て親子の会話に乏しい 家の手伝いよくやり一人で行動できる 伸びる子



▲ こうして外で遊ぶのも子どもには大事な「勉強」＝千葉県鎌ケ谷市で

同じ知能、同じ教室でも生活ぶりで成績に差

同じ知能で同じ教室にいて

も、成績に差が出るのはなぜだ

らうか。東京都教育研究所はこ

の問いにこの点に特化した調査

をまとめた。部内小学五、六年

生男女八百六十五人の子と親

と、学校外の生活をたずね

た。このうち知能偏差値が同じ(中

程度)なのに、国語、算数、理

科、社会の成績が比較的優れて

いる組と、劣っている組につい

て、生活の相違を比較分析し

た。その結果は「テレビばかり

見ている、身近な生活体験や親

子の会話に乏しい子は成績が伸

びず、反対に家の手伝いをよく

し、一人でいろいろな行動ので

きる子は伸びる」という興味深

いものだった。何事も積極的に

取り組む意欲が学習にも反映す

るためだ。親の「しつけ」や子

との接し方が勉強にも影響を

与えていることがわかった。

調査では子どもを知能偏差値と

成績で五グループに分け、特に

「知能が中位の子ども」に焦点を合

わせ、知能中位だが学習は「成

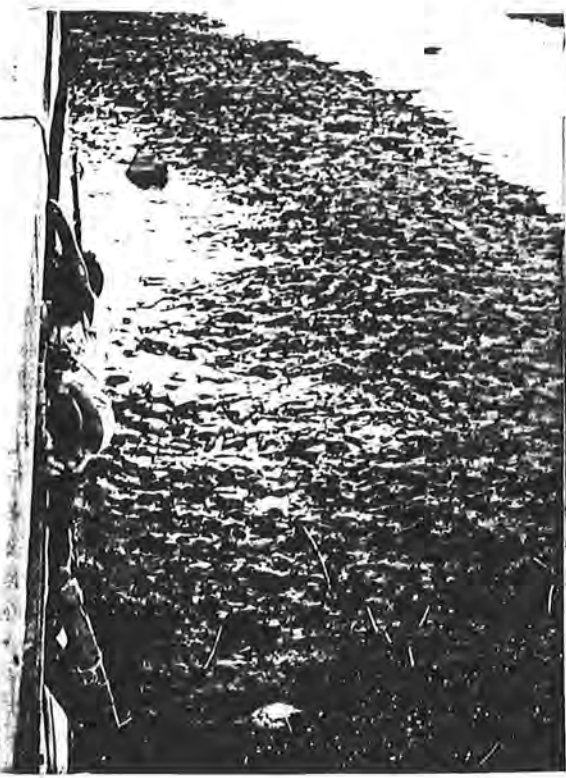
績良好」なAグループ、「成績

不良」なBグループと比較調査

した。

1978.11.2(毎日)

東京都教育
研究所調べ



谷津干潟で、今子供たちは...
わすか、一、二匹のカニや魚をつかまえるのに
、かわりようなくうらみ苦労して、ドロだらけにな
ってさがしている。しかし、石ヤビン、ゴミを捨
てた時は、大声でどなって私産は注意する。

おいっ、落ちるなよっ!
時々、降りる事も登ることも
できずに泣き出す子もいる。

時は放課後。カニ、ヤドカリ、ハゼ
、イソギンチャクなどを取っていた。



ベンチのそばの水溜まりです。ここ
から靴をぬいで干潟に入ります。



よあーし、気に入ったあ! その調子
でどんどんよごれるあ、いいかあー。



八千潟の最先端の沖に、「赤の燈台」と「白の燈台」があった。潮流の多様な所を流されながら、とうとう泳ぎつきた。4才の時であった。V

ふかんど

第58号

1981.9.28

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市北方二丁目三五番八
 電話 0476-1-1666
 文責 森田三郎

創刊 1980.6.3
 読年 2000



ぼく達、馬と一緒に泳いだんだ。
 馬は、体や大まのりに泳ぐのが上手です。長い顔をしてスイスイ泳ぎました。馬と競争するのは面白かったけれど、すぐ周りに来て、生温かい息を感じるのよ。それで気分悪かった。

「馬だ馬だ、逃げろー」
 「馬、早く逃げろー」

夜浜 ↓
 月がまた出たあつ 月が出たあつよりよ

大満月の夜、母に連れられて行くほど目のぼけたのは、月明かりの下、干潟の上で貝を取る人の群だつた。おる人はおる、行当を食ふ、中には酒を飲んで大声で歌を歌う人もいた。

干潟の上を一面に暗くして、ものすごい翼の音をたてながら、シギやチドリの大群が流れる雲のようになって飛んでいった。そして、こういう大群は、広大な干潟のあちこちに散在しており、場所を変えつつ移動していったのである。

「あれ、うみも無くなっちゃった!？」
 長野のおじさんが納涼台に来た時には、まだサアンサアンと潮が鳴りました。ところが、ひとりで立ち上がって、どこにも潮が見えませんでした。おじさんがびっくりして、「あれ、おい、うみが無えぞ、どこ行った。」と、お水を聞いたばかりは、とてもおかしかった。

よし野の中の夕暮
 干潟とよし野に棲みついてたサル
 どこから来たのか、半ば野性化したサルが棲みついてしまいました。房州方面から流木に乗ってきたので、とてお水た。

パチンコ
 バネ仕掛けの網の上のふたがとじるようになっている。泳いでいるエビは、す早いで、こうしてつかまえたのです。

浜辺で、つかまえて来たアサリやヒトウオを、ふかんどに焼いたりして食べたこと。たき木は、波打5際の竹や木でした。

せうじんな風に遊ばない! 報告:海と干潟を語るついでにー坂本結二

十八日午後、千葉から森田三郎君を迎えて、一時からは豊前、七時からは中津と相次いで「海と干潟を語る集い」を持った。例によって参加者はさほどでなく、互いに海と干潟の想い出を語り合い、重要さを確認し合うまでには到らなかったように思えるが、参加した者に、豊かな生活が何なのか、森田君は彼の絵と話を通して改めて考える機会を与えてくれた。

前日は高砂市でも同種の集いに参加しており、三ラウンドの強行軍にタフな森田君もしゃべり疲れを苦にしていた。彼が海辺で過した少年時代の思い出は、実は語り始めると尽きない程、豊かで充実していたのである。ドコからドコまで話すべきか戸惑っている様子に何となくしゃべり疲れもわかるような気がした。それ程の彼の体験は昭和二十五年から三十年までのもので、そんなに遠い昔の話ではない。その風景は次々と姿を消してしまい、彼が描いた事柄は今や何一つ残っていない。彼が側に住んでいる谷津干潟は周囲の広大な埋立地の中にポツンと取り残された50haの干潟であり、ヘドロがたまり、汚水も流れ込むとあって、異臭さえ放っている。森田君は「その汚い谷津干潟に行つて、今ここにいるシギやカニたちがあの豊かだった谷津干潟



のこをしてやるのが、地下に眠っている生き物に対するお札になるのではなにかとふとそんな気持ちでいる」と痛恨こめて語るののである。その出来る限りのことがこの絵なのであり、現に彼が谷津干潟周辺の埋立地へ行つている。チドリやシギ類の巣の調査なのである。



(草の根通信は、環境権を主張するオ々の会報)

お振込は千葉銀行012-54253 谷津干潟愛護研究会

八波打ちぎわの流木を集めてイカダを作り、上り潮を待たかゆて、沖を見つめていた頃

ふかんど

第59号

1981.9.29

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二ノ三五ノ六
 電話 0476-1-1666
 文責 小林 田三郎

講読年2000

創刊 1980.6.3

お振込は千葉銀行012-54253
 谷津干潟愛護研究会

こんな自然をこわすのはたがいた...もうすぐこの自然がなくなってしまうけれど、こんな自然をいっまでもあった方がいい...さんせー!!

ホウロクシギがカニを食べているのを見たり、ツア...?

鳥が...さき...と、とりか...みたり? みた!!?

由良...! 公...! 原...!

か... りにマス!

あ、(このザックには...)
 ときと...
 と...を保...
 しておいこあげて
 下さい! かん(お)て下さい!

ぜめつするとりか、
 谷津干潟で!
 全めつ、絶めつしてしま
 と...で...は、
 お願ひ(しま)
 (ハマヲキ)

谷津干潟 クリーニ
 作戦の
 みなさま
 さようなら

9/13
 三貴野自然クラブ 野鳥教室

21名 参上。 (連絡先) 千葉県立谷津干潟自然観察会

谷津干潟通信箱

津田高の生徒さん どうぞありがとう

10日ぐらひ前のことだった。例によつて私は、釣り人の残していったゴミを捨てると思ひ、県立・津田沼高校がわの干潟へとまわった。まず、水路ぎわの所を清掃し、丁度袋が一杯になったので、新しい袋を取りに歩き出し、ふも目を遠くにやると、生徒たちが3々5々グループを作っていた。が、よく見ると、大きな

水色のビニール袋を二人で持ち、時々かかんで何かを捨り、歩いて歩いていた。私は、「まさか?」あつりは、「もしかしたら?」と、或る希望を持って近くへ行った。

ゴミを拾っていたのだ。「ゆえ君達、何でここをさき、掃除してんのあ?」。「ううん、学校の方からゆ、言うることになったからうて言われたから...」と二人が答えた。私は、うへーかかった。よかった...ありがとう、ただよの気持ちであった。私は急いでカメラのシャッターを切った。が、後で見たら、フィルムが入れてない。

◎ 甦えろ想い出に、ゴミを捨てる私を、人がどう思うかなどということは、全く念頭になかった。



谷津干潟の今頃――

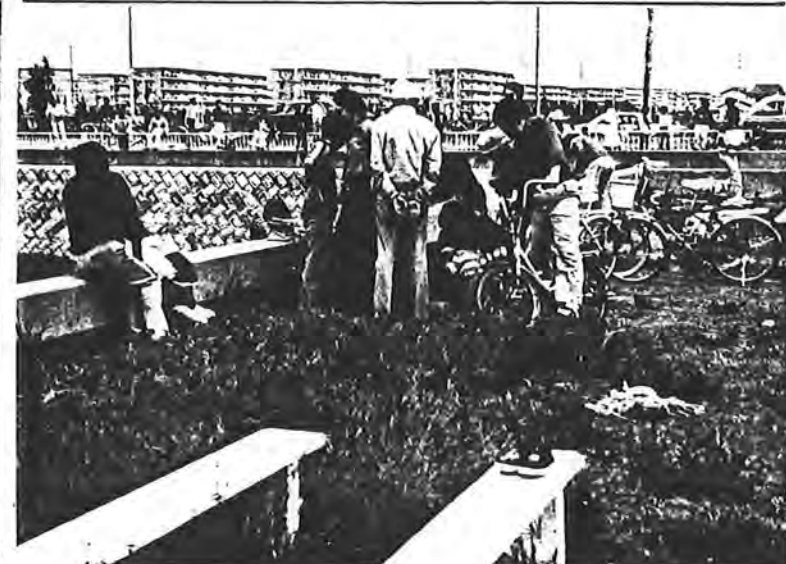
谷津干潟の休日は、今、こういう有様である。しかし、ここでもまだ少ない方である。この写真は、夕方近くであり、天気もあまり良くない日でのこと。

麦ワラ帽子をかぶり、ドロだらけの長ぐつをはいた愛護研究会の会員たちは、人々の向に立ち入り、足ととにだらけなく散らかっている。くなどの、すなわちゴミを、袋を持って拾い歩くのであった。

混んでいる所などは、「すみませえーん。あのうちよっと、ゴミを拾わせて下さあー」と言っている。

釣り人やバードウォッチャーの鳥の観察にしゃまにならないうように、足の向をはずうようにしてゴミを捨てるながら、私の胸裏にある「想い出」が甦るのであった。

「……そうだなああん時ッオレはあ、NHKのテレビロータリーの人といっしょにリコンとこ来たっけなあ……。んでオレ達リ皆んなでここでえセツカの撮影したっけなあ、あん時ッリコンとこは一面の草原でえヒバリをセツカもヨシキリもいっぱいいたっけなあ……。と、で、オレは今、ゴミ拾ってんのかあ。



△今の京葉道路の下に、以前、そのすぐくつめたくてきれいな湧き水があつて、よくカワヤミガとまよつたのだ。

ふかんど

第60号

1981.9.30

谷津干潟愛護研究会
 谷津市本北方二丁目三五〇六
 〒272 電話 〇三三-一六六六八
 文責 森田三郎

講読年2000

創刊 1980.6.30

谷津干潟 観察設備で対立

東京湾奥部に残された最後の野鳥の楽園「谷津干潟」。今冬も稼げている「千葉の干潟を守る会」の問題が持ち上がりつつある。大塚清代表と周辺の土地を管「守る会」が同庁管理地内に野鳥の楽園「谷津干潟」を確保しようとしている。同庁の出先機関である京葉建設事務所が「土地の無断使用は困る」とクレームをつけたからだ。「守る会」側は「そんなお断りはいわすに」とサラリとかわしているのだ。

鳥観察用のベンチやテーブルを敷いたことに対し、同庁の出先機関である京葉建設事務所が「土地の無断使用は困る」とクレームをつけたからだ。「守る会」側は「そんなお断りはいわすに」とサラリとかわしているのだ。

県企業庁 土地の無断使用は困る 守る会 固いこと言わず認めて

「谷津干潟」は、習志野市谷津に埋め立て地に変わってしまった。残された「守る会」の京成谷津遊園の隣り合わせにある。同地区だけが国有地であり、ここに四季を通じて様々な野鳥が集まり、東京湾沿岸では貴重な存在となっていることから、このままでは、国設鳥獣保護区に指定される。環境庁、県、習志野市へ働きかけてきた。

今回の野鳥観察用の施設づくりも、こうした谷津干潟保護運動の一環で「守る会」の会員である市川市本北方二丁目、森田三郎さん(以下)を中心としたこの夏ごろから進めてきた。問題の施設が設置されたのは、干潟の東側にある県企業庁所有地の一部。海岸から流れてきた流木やベニヤ板を静かに使ったベンチやテーブルが並び、に並んでいる。その数、百十数あり、最近では、近くの団地の住民たちが散歩に立ち寄り、集まっている野鳥をながめてゆくなど、地域住民にも親しまれている。

波さざに樂園の野鳥



谷津干潟近くの県企業庁埋め立て地で野鳥観察用のベンチや机づくりをする「千葉の干潟を守る会」の森田三郎さん

このミニ公園の出現に驚いたのは、管理者の京葉建設事務所。同

① 朝日新聞 1978年 12月8日
 ② 1978年 12月23日

自然緑地の為に＝テーブルとベンチ物語

〈資料として〉

谷津干潟のベンチ騒ぎ

「野鳥保護に県企業庁はもっと理解を示して」——東京湾奥部に残された最後の野鳥の楽園「谷津干潟」(習志野市谷津)の周辺に、「千葉の干潟を守る会」(大塚清代表)が野鳥観察用のベンチやテーブルを設置したことに、同地区を管理している県企業庁が「土地の無断使用は困る」とクレームをつけているが、これを報道した朝日新聞京葉版(八日付)を讀んだ読者から、同庁の姿勢を批判する声が続々と、京葉支局に寄せられている。同干潟は臨海ニュータウン一帯に残された市民の唯一の憩いの場。「理解のきかないお役所仕事」と書きつづらるる紹介する

融通きかないお役所仕事 書きしきり



周辺住民の憩いの場、「谷津干潟」のミニ公園とベンチを造った森田三郎さん(習志野市秋津)

乱暴な開発で踏みつぶすな
 声1 「私は八年前に谷津に引

つ越してきた。当時は空気がきれいで、遠浅の海では潮干狩りも楽しめた。ところが、アツという間に一面が埋め立てられ、灰色の荒地に変わってしまった。「谷津干

「守る会」に激励やカンパ
 声2 「あれが作ったのかなど思いながら、散歩のとき、利用させてもらっていました。周辺には公園がないので、みんな喜んでいます。企業庁さんも僕のことをよくわかって、ベンチの設置を認めてくれたのは……」

住民の公園にベンチは快調
 声3 「本当に苦勞さま。何人も他人に危害を及ぼさず、迷惑をかけているわけではないのだから、企業庁はしっかりと定規に考えず理解を示すべきではないか。それでこそ花も実もある行政」

強気変わらず 撤去におわす 県企業庁
 しかし、県企業庁の出先機関「京葉建設事務所」では「やはり、不法行為なので、このままではおくれにはいけません」と、相変わらず強気の構え。来春には、すでに撤去をおぼせている。

このほか旭ヶ浦団地の主婦二人からは四十円のカンパ、森田さんがベンチの材料を買った船橋市内の材木店からは木材の寄付、土地の古宅はベンチ造りのための資金を贈ってくれた。

船橋市習志野台四、津田重男

お振込は千葉銀行012-54253 谷津干潟愛護研究会

●150余のテーブルとベンチ、引いて自然緑地の獲得は、谷津・袖ヶ浦の主婦の活躍によるもので、実は自然保護団体ではなかったのです。(60)

◎御願ひ。こゝろ一厘の記事にツリテの感想をお寄せ下さい。(そのまゝコピーできる形で)

「野鳥観察用の施設は邪魔」

谷津干潟宅造
で県企業庁「守る会」など反発

東京湾奥部に残された最後の野鳥の楽園「谷津干潟(ひがた)」(習志野市谷津)周辺の県企業庁管理地で宅地造成工事が始まり、同庁は十一日、管理地内に野鳥観察用のベンチやテーブルを設置している「干潟を守る会」(大浜清代表)と日本野鳥の会千葉支部(石川敏雄会長)に「造成工事の支障となるので、ベンチの一部を移動してほしい」と申し入れた。

「守る会」の森田三郎さん(三十一)は「干潟を守る会」の代表として、ベンチ作りを続けている。同市在住に、県企業庁京葉建設事務所所長谷川管理課長らが現地に直接出向き、申し入れたもので、現在あるベンチやテーブルのうち、干潟の堤防近くにあるものはそのままで残すのしかし、工事の支障になる一部を移動してほしい、という内容。

これに対し、森田さんは「企業庁が野鳥保護に、理解を示していない段階では、ベンチの移動はできない」と拒否した。森田さんは「ベンチや机の設置を教えるに精進しているのは野鳥観察用のほか、干潟に集まってくる野鳥たちの営巣地として、企業庁管理地の一部を残して入れることを要求するデモンストレーションの意味もある」という。

③

朝日新聞
1979.1.27

「谷津干潟」の野鳥観察ベンチ撤去の話し合いは平行線

支部長の石川俊夫・千葉大教授ら、県側からは習志野自然保護課長らが出席した。

東京湾奥部に残された最後の野鳥の楽園「谷津干潟(ひがた)」(習志野市谷津)の周辺に「干潟を守る会」(大浜清代表)が野鳥観察用ベンチやテーブルを設置したことに、県企業庁が「不法占拠にあたる」として撤去するよう求めた問題で、「守る会」と県との初めての話し合いが二十六日、あった。その結果、同地域を撤収して野鳥の観察地として残すよう要求する「守る会」側と、あくまで撤去方針をとる県側の意見が平行線をたどり、二十九日再度話し合いを持つことになった。

支部長の石川俊夫・千葉大教授ら、県側からは習志野自然保護課長らが出席した。席上、県側は二月から県企業庁が同地域で宅地造成を始めるので、じゃまとなるベンチやテーブルを取り除いてほしいと造成後、緑地帯となる第七の地区に再度ベンチやテーブルを設置してもよいとの仲介案を示した。

これに対し、「守る会」は「ベンチやテーブルが撤去されている地域(約十区)は干潟にやってくる鳥たちが満潮時に休んだり、営巣するのに欠かせない場所であり、鳥が減少を続ける野鳥保護の対策として買収してほしいの買収の支障となるならベンチなどは早急に撤去する」という。

④

朝日新聞
1979.5.12

「ベンチ移動」合意

谷津干潟 保護団体と県

習志野市谷津の「谷津干潟(ひがた)」宅地造成工事が始まり、管理地内に設置されている野鳥観察用のベンチやテーブルをめぐって企業庁側が「干潟を守る会」と日本野鳥の会千葉支部に移動を申し入れていたが、二十四日企業庁、自然保護団体に県自然保護課が加わって話し合いが行われ、ベンチ撤去などの問題に合意した。

朝日新聞
1979.5.25

千葉市内で開いた話し合いには「守る会」の大浜清代表、干潟を守る運動の一環としてベンチを作ってきた森田三郎さん、野鳥の会の石川敏雄千葉支部長、企業庁の山崎四郎建設課長らが出席した。話し合いの結果、野鳥観察用のベンチ、テーブルは工事に支障のある場所について保護団体が撤去しながら撤去する。企業庁の造成地のうち側面緑地帯、住宅地六千平方メートルを緑地帯として残す。側面の内側七区間の緑地帯の整備については習志野市と

保護団体の要望を聞いていく。谷津干潟の整備については、習志野市の鳥獣保護課の調査を持って計画を立てる、との方向で合意した。

全ては地元主婦のおかげ
であった

「ゆっ、森田さん、あたし電話かけてやる。ゆえ、どう話をすればいいの？、教えて、うまく話せるかどうか分からないけれど、あたしたち森田さんの味方よっ」。

「あそこには絶対にテーブルとベンチが必要よ。それを何よ、自分産は何人にもないでさあ、干潟をどういっながらさあ、人がゴミなんと言ったる流木を拾って作ったベンチを、けしからんだなんてえ、あ、あ、うもんほんとうは行政が先頭立って作らなきゃあ」。

「だって皆んなあ喜んで使ってたるわよ。この辺で自然が残ったる所だえ、気持ちよく散歩が出来るとりったらあ、干潟ぐらいいやない。他に何かあるの？、あたし産市民が休めるとりったらあ、あそここの干潟だけいかにいっやないのあーい」。

「うちの子供も、オレ森田さんといっしよに干潟でテーブルとベンチを作ったんだ、なんと言った、とって楽しんでいたわよ」。

お、海だ、ってなくなっしました、埋め立て地だ、って液り鳥が卵を産む所なん、って、もなくなくなっしまっしよ、せめてあそこぐらいいはあ、電話をかけたながら、声を、るわけ、泣いっついたら主婦とい、た、後で知らせました。

森田はこの件を一つの契機として、「谷津干潟愛護研究会」の名を気兼ねせず出す決意をした。

野鳥観察が住宅か

地元自然保護団体は流木を「ゴミ」と言った。しかしそのゴミが...

この草原が必要だと、私は思っています...

ふかんど

第61号

1981.10.1

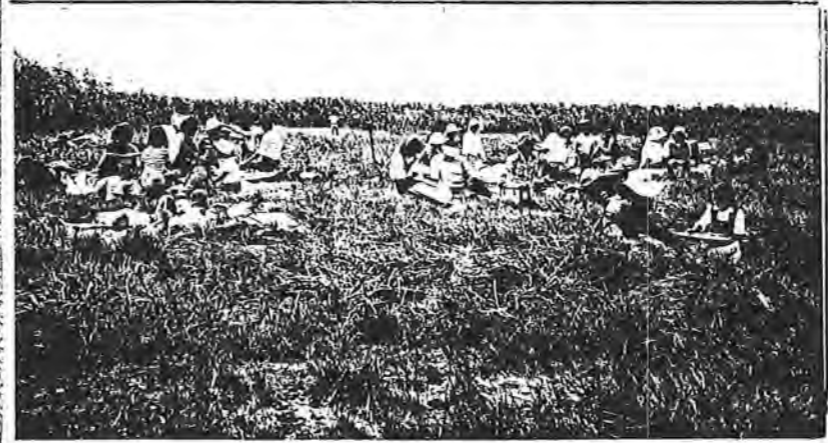
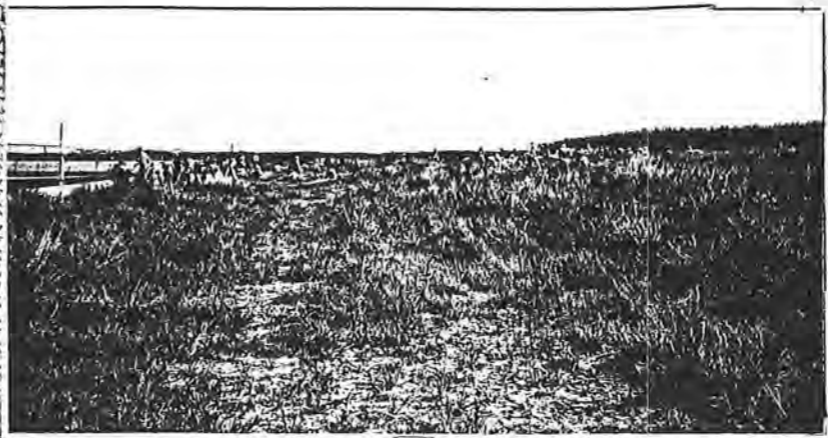
谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二ノ三五〇六
 電話 〇三三-一六一六六六八
 文責 森田三郎

創刊 2000
 1980.6.3

お振込は千葉銀行012-54253
 谷津干潟愛護研究会

へ何もかもまっ白い貝ガラ工場があつて、広草はらに、貝ガラの山がたたくさんでキーンとした。

この写真、私がとったものではな...
 この時、私はまだ入院したばかり...
 手術後の激痛をいってこらえていた。
 ←52.6



(自然緑地の為に—テーブルベンチ物語)

愛鳥家が作ったベンチなど

1979.5.10 (毎日)

県企業庁「撤去せよ」

谷津干潟

東京湾中央部唯一の自然干潟である習志野市の「谷津干潟」に多数のベンチ、テーブルが設置された。干潟にやってくる野鳥をゆっくり観察するために、野鳥愛好家や子供たちが汗を流して建設した手づくりの施設。ところが建設場所が県有地で住宅建設予定地になっているため県企業庁が「土地の無断使用は困る」とクレームをつけた。企業庁側は野鳥保護団体に四月末までの期限付きで、不法占拠物の撤去を求めたが、目下話し合いは平行線をたどっている。野鳥観察が住宅建設か、干潟をめぐって静かな対決がつついている。十日からは愛鳥週間。

住宅予定地の無断使用

観察用施設が並んでいるのは同干潟南側の海岸道路にはさまれた場所。昨年九月ごろ、千葉の干潟を守る会、日本野鳥の会関東支部会員の森田三郎さん(こし市川市本北方二の三五〇六)ら愛鳥家が干潟を清掃したさい、大層の木片を引き揚げた。処理を困ってベンチを三箇所つづつと好評だったため、森田さんは子供たちの応援でその後も木片や自備でベンチ板を買い込んでベンチのほかテーブルもつくり始めた。

いまではベンチ、イスが百七十脚、テーブル三十二台、案内板十一個のほか野鳥通情報も設けられた。丸太を組み合わせたベンチは三、四段つきに一方所あり、脚一、脚一・五段のテーブルにもイ

訪れる人たちはベンチにまよってゆっくり鳥の生態を観察したりテーブルで弁当をひいたりして楽しんでる。昨年十一月、これらの施設に気づいた企業庁は「べんち、無断の施設は不法占拠物。使用されては困る」と森田さんらに申し入れた。何度も森田さんらと企業庁の間で話し合いが行われたが、企業庁側はあくまで「不法を黙認するわけにはいかない」として撤去を要請した。一方森田さんらは「干潟は国民の共有財産。ここに集まる鳥たちを見るために施設が必要だ。多量地の有効利用を図るつもりではないかと主張して譲らず、話し合いはうまくいかなかった。



子供らは楽しんでいるのだが

頭を中心に三千種の野鳥が飛来。今春は二万羽が集まっているとい

「子どもの日」の五月には、三団体の音頭として小学生の自然観察が開かれたり保護団体の谷津干潟少年団も結成され、論議を呼んでいるイス、テーブルを利用して野鳥観察を楽しんだ。

積極的に撤去する気はない
 大浜清・千葉の干潟を守る会代表の森田三郎は、四月中に撤去せよの通知があったが、市民の要望もあるため私としては撤去を要請がでている谷津干潟のテーブルとイスは手前、観察しているのは森田さん

現状では困る
 企業庁の話、住宅建設の工事が始まり、機械も投入されるのでイスなどを撤去しては困る。脚を切った脚の下に、足をかけ移動式にするというアイデアも森田さんらも検討した。こうすれば、

お振込は千葉銀行012-54253
 谷津干潟愛護研究会

(一) 法治国家の国民として
 違法行為は申訳ない
 (二) 然しなかう全国の音鳥の歌あよぶ
 多数の生徒見守るが同様に
 に来るので そのうち違法の便利
 をあそびた

(三) 十として個人の権利の欲
 ではない

(四) 新聞その他一般の世論は
 非難のためのものを送るのに
 大変 有意的である

(五) 近頃、工場が建設
 される場合 鷹の
 本も場がある そのために
 止むを得なかった

設置してしまつた
 台と椅子は
 生活の本キョつては
 占有とは考えられず
 暫くであり、とりこ
 かんたんである

1978
 12
 17



52年6月。まだテーブルとベンチが作
 られていない頃。10日に交通事故で骨の
 一番太りところ、スネを砕いてしまった。
 写真のような流木を利用してベンチ作成。

何しろ、金具をどうも退院した日、干潟へ直行し、又ベンチを作りました。

●これらの日々、實際力になつたのは一般市民だつた。
 78年の9月頃からベンチを作り始めた。
 汗をかいた体に、小さな虫が無数にたかっ
 て大変困つた。

この頃は雨が大部分で、イのフツで
 にベンチを作つていた。12月に入ると風が
 冷たく、木枯らしをまともに受けてしま
 う。吹きさらしの干潟と草原である。脚に
 は金具が入つて、手でさかると木ジの
 場所がはつきりわかつた。時々病院へ通
 つていた。

流木を引っぱり上げては、草はらの中を
 あちこちへと引きずつていった。テーブル
 とベンチを作るのに、丁度いいものを組み
 合はすためである。イんな毎日、干潟へ毎
 日の如く散歩に来るご老人がいた。したが
 って私とよく顔を合はし、ソフしかありさ
 つと交わりようになつていった。

ヤカク話しもするようになった。すま
 りは谷津で、早稲田大学で講師をなさつて
 るとのこと。谷津3丁目の自治会長さんで
 もあるとのこと。上の文は、イの人が私の
 為にと書いて、いたためてくれたものであ
 る。思ふに、テーブルとベンチ、私のこと
 、イー県、これからのゆく末を案じて
 たのである。また、県企業庁と全面的に
 フかり合う前のことであつた。

「森田さん、いいですか、あなたはこのま
 ま黙つてあまたの信念を貫いていきなさい
 。決つて権利だとか法律のことをたてに
 とつて身構へてはいけなさい、いいね」と
 。イー「このように言いなさい」と。

● いつか反撃してやろうと思っていた。50年の市の記事(5月号)は読売が出したのだから、読売にはその義務がある一人だと思っていた。

ふかんど

号62

1981.10.2

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二ノ三三〇
 電話 0476-31-1666
 文責 森田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

△小さな貝は取りはげない。母から、丘所のおばさんから、又、かき大将から言わされた頃

団地前 谷津干潟に「自然」戻る

増える貝、カニ、野鳥

(読売) 52.9.30



④干潟でアサリ採りに興じる団地っ子たちの埋め立て地のいたるところに海鳥の巣が……(いずれも森田三郎さん提供)

団地っ子

習志野市の袖ヶ浦団地先端埋め立て地と船橋市の若松団地には、まれば谷津干潟が「自然力」をめぐりめぐりめぐらしている。埋め立て工事と海岸防衛工事、一時は海水の流れが遠退き、干潟の機能を失うかに見えたが、工事がほぼ終わり、海水路が整備されて海水が流入するにつれ、魚貝類、ゴカイなどもどんどん増え、天然の干潟としての機能を完全に取り戻した。休日には釣り人が集まり、団地っ子にはアサリ、カニ採りに歓声をあげた。この谷津干潟は、東京湾に残された数少ない貴重な、野鳥の楽園。「干潟を守れ」という声も一段と高まっている。

谷津干潟については二年前、習志野市が特別プロジェクトチームを編成し、保存問題を含めて検討したが、その時は「海水が過剰な状態をほかに比べ、はつきりと汚染の段階にきている」「海水を浄化することは、埋め立て地先の海内を腐食パイプを作ったとしても難しい」として、「現状保存はムリ」との結論を出していた。ところが、実際に水路が整備され、海水の流入がよくなり始めると、干潟のあちこちで魚貝類やカニ、ゴカイなどが目を過って増え出した。

干潟の観察を熱心に続けている谷津干潟愛護研究会の森田三郎さん(市川市本北方二ノ三五〇)の語によると、魚ではハセ、イナ、ボラ、マルタ、セイゴなどが潮退時に干潟の水面に姿を見せるようになったという。トウゴロウイワシの稚魚がうようよ泳いでいるところを写真にも収めた。

また、カニ類はヤマトオサガニ、チゴガニを中心に、干潟のほぼ全域で生息するようになり、子供たちの格好の遊び相手。バケツにいっぱいカニを採っていく子供もいるという。谷津干潟では絶滅したといわれた二枚貝も、復活しているし、アサリ、ウミミナも増えて、ちょっとした潮干狩りへは楽しめる。

こうした生き物が増えたおかげで、干潟は、野鳥の楽園としても回復しつつある。いまのところ、干潟に隣接する広大な埋め立て地が、渡り鳥の絶好のねぐら。北からはシロチドリ、南からはゴアジサシなどが飛来して、きて巣をつくり産卵しており、いたる所でヒナをかえしている。これらの渡り鳥は、来月中旬ごろから再び増え、北へ帰っていく。

干潟の回復で、保存運動も一層高まっているが、習志野市企業調査室でも「あくまで保存にはなじめない」というわけでもない。県と関係者が干潟を鳥獣保護区に指定するのの方針を出しているので、今後、干潟を所有している大塚省も関係者、県と十分に協議をし、事情を聞きながら検討していきたい」と話している。

谷津干潟の、実態を

知って欲しかった
 見て欲しかった

この年(52年)の4月の中頃、いつかの如く干潟に行った。今の津田沼高校の所だ。殆んど潮が引いた時。干潟の中に川のようなミオがあって、そこから太い水路に潮が流れて来っていた。

「あれっ」と思ってたのを見ると、その所を中心に「黒ソカタマリ」が動いていた。「魚、ヤムと種魚からウグイス大きくなリカワたどのの群だ」と、すぐわかった。糸木込んでいる所は半円状に群を成し、その所ほどの所を結ぶようにして、干

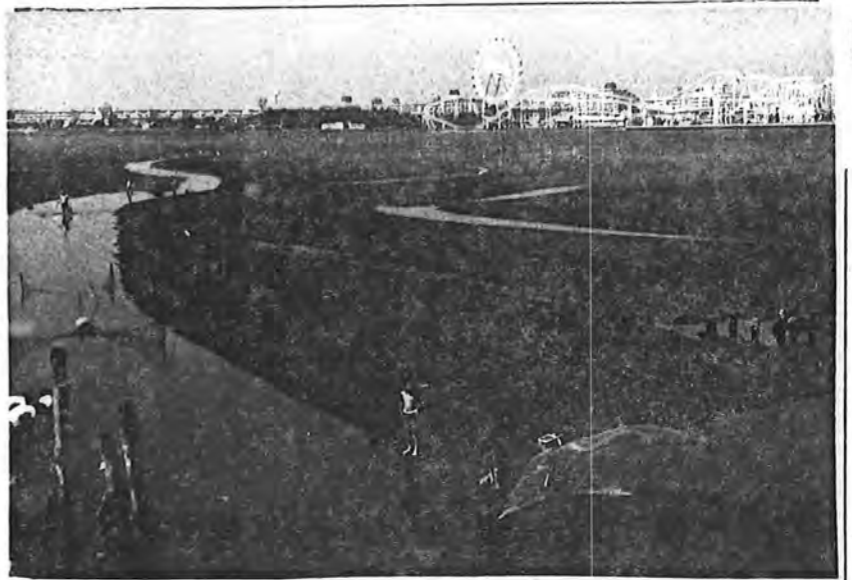
リキウの中身?、洗面道具、本、ノート、双眼鏡、千リ紙、原稿用紙、その他。ままコジキ袋です。

潟よりの水ぎわには、帯状になって群がっていた。すぐに干潟へ降り、丘ずきながら、一枚又一枚と伊真をとった。水に顔を近づけても逃げないのだ。最後には、手をオワン形にして、ヤム、ムドリ、にいてすくった。調査の結果、トウゴロウイワシの子だった。実は、ヤムより一ヶ月程前、やはり水路で、無数の黒ソカタマリと帯を私は確認していたのであった。

右の記事は、退院(9月3日)して向さなり時に、ギプスをはめ、松葉杖をつき、両手が小さかかっているのデリュシサクを背中にして、千葉の読売まで行き、半ば抗議するようになり説明した。余程その時の私はくやしかったのだらう。

松葉杖をついて、森田は生まれ初めて「弱者の身」になり、行く所、至る所で「水」を実感しました。

お振込は千葉銀行012-54253
 谷津干潟愛護研究会



1)



2)



3)

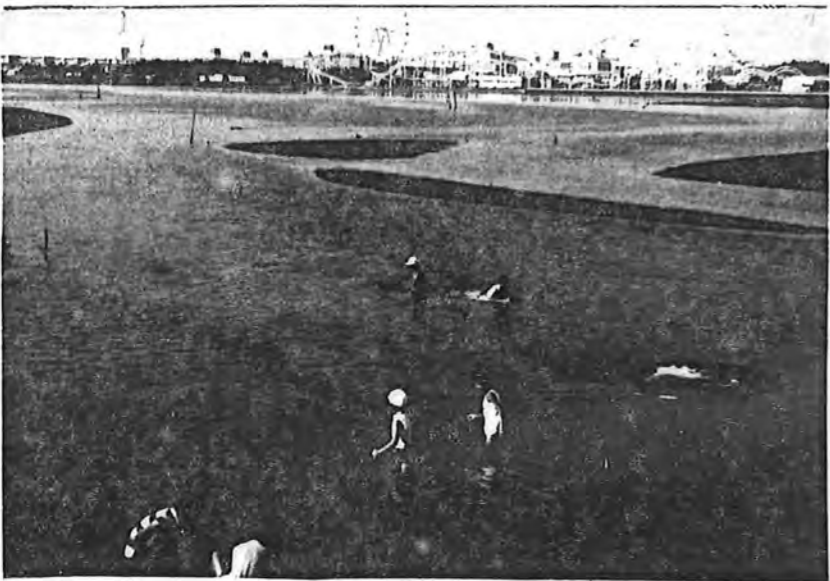
ある日の谷津干潟

9月27日。前日の雨とあがり、とつと暑い日でした。毎日曜日に干潟のクリーン作戦をしているぼく達は、汗と泥を洗い、休みがてらカメラをとって歩いてみました。

①は、魚の大群めがけて投網をしているところです。やばの子供は、とった魚をチブガミにするのが大好きらしい。②は、す

ぐ近くの団地の人。野鳥観察と釣り、早くミニに木が欲しいなあ。③は、網の中でおどろ銀リンに、ロタに「スゲエッ」と言って子供が集まる。

④は、潮が川の流木のように干潟へ入って来て、氷ぐ子供たち。⑤は、潮が満ち始めると、水の中で魚の群が見える。誰かが張った網の中に早く入ると、子供が見つめている。⑥は、今まで干潟で遊んでいました。草ムラのベンチではんを食べている。ほいてあるのは長ぐつとパンツ。干潟の中にコサギ。



4)



5)



6)